



26 SEABORG 500J

取扱説明書

目次

安全上のご注意	1～9(1,2)
---------	----------

電源について	10～12
電源とのつなぎ方	10
電源について	11
バッテリーチェック表示について	12

お手入れ方法	13,14
リールのお手入れについて	13
お手入れ方法	13
コード取扱い上のご注意	14
コードのお手入れのしかた	14
その他お手入れ上のご注意	14

各部の名称と機能	15,16
----------	-------

スイッチの名称と働き	17
------------	----

はじめに	18
------	----

機能設定の基本操作	19～64
-----------	-------

1.メニュー画面の使い方	19,20
便利機能の設定のしかた	19,20
2.道糸入力	21～33
P1 糸長入力	21～23
P2 下巻入力	24～27
P3 引出入力	28～30
P4 10m引出入力	31～33
3.リモート ジョグ接続(別売)	34,35
4.サブカウンター	36～38
底からカウンター	36
巻上速度表示	37
巻上残り時間表示	38
5.釣りを始める前に	39
水面ゼロ設定	39
道糸が切れてしまったら	39
6.船べり停止	40,41
えらべる船べり自動停止	40,41
7.糸送り機能	42
8.チョイ巻き/チョイ止め	43
9.ジギングモード	44～48
10.モーターON/OFF連動クラッチ	49
11.電子ドラグ音	50
12.デブスアラーム	51
13.タイマー	52

14.タイマー巻上	53
15.一定速巻上モード	54
16.フカセモード	55,56
17.水深指定補正	57
18.10m引出し水深補正	58
19.実釣来歴	59
20.ハンドルノブの取り外し方	60
21.ハンドルアーム長 交換方法	61
22.ロッドクランプ装着方法(別売)	62
23.その他の便利機能	63,64
いろいろアラーム	63
アラームON・OFF選択	63
ドラグ音ON・OFF選択	63
Language(言語)選択	63
単位選択	64
認証	64
カウンターランプ	64
ブレーカー作動表示	64

仕様一覧	65
リール仕様一覧	65
カウンター部仕様	65

展開図	66,67
-----	-------

故障かな?と考える前に	68
-------------	----

この度は、26シーボーク500Jをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。船釣りに便利な機能が多く搭載されているこの電動リールを正しくご使用いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。またリール同様、この説明書も大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

電動リールをご使用にあたり注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。取扱説明書および付属のワーニングリストを読まずにご使用されての保証はできません。

●マークについて



この記号は「してはいけないこと」を意味しています。
この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。



この記号は「注意すべきこと」を意味しています。
この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。



この記号は「しなければならないこと」を意味しています。
この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。

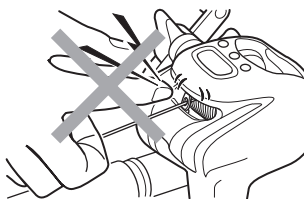
⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- 糸をスプールに平行巻きにするレベルwindと本体の間に指をはさまれないようご注意ください。怪我をするおそれがあります。



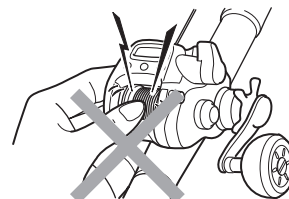
接触注意!



- 糸送り(モーター作動)中にクラッチをONにすると糸を巻き込みます。その際は指をはさまれないよう注意してください。怪我をするおそれがあります。



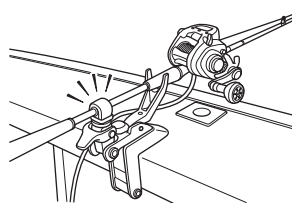
接触注意!



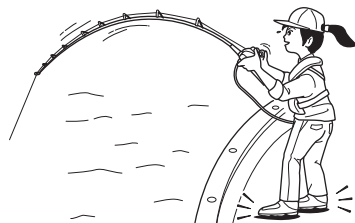
- 使用中は目を離さないでください。思わぬ事故・怪我につながります。



- 大型電動リール、大物釣りにおいて、ロッドクランプおよびホルダーにきちんと取り付けてください。しっかり固定されていないと思わぬ事故・けがにつながります。ロッドには付属のクランプを使用して装着してください。



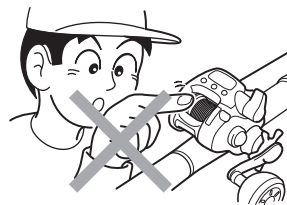
- 無理な姿勢で使わないでください。常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。



- お子さまが使用する時は、回転部やスキマに手をはさまれないよう、付き添いの保護者の方は十分ご注意ください。



取扱注意!



- 大型電動リールはハイパワーのため、高い負荷をかけた際はロッドホルダーや船の取付部、ロッドの破損、人が海に引きずり込まれたり、ボートが引張られたり等、事故や怪我にご注意ください。

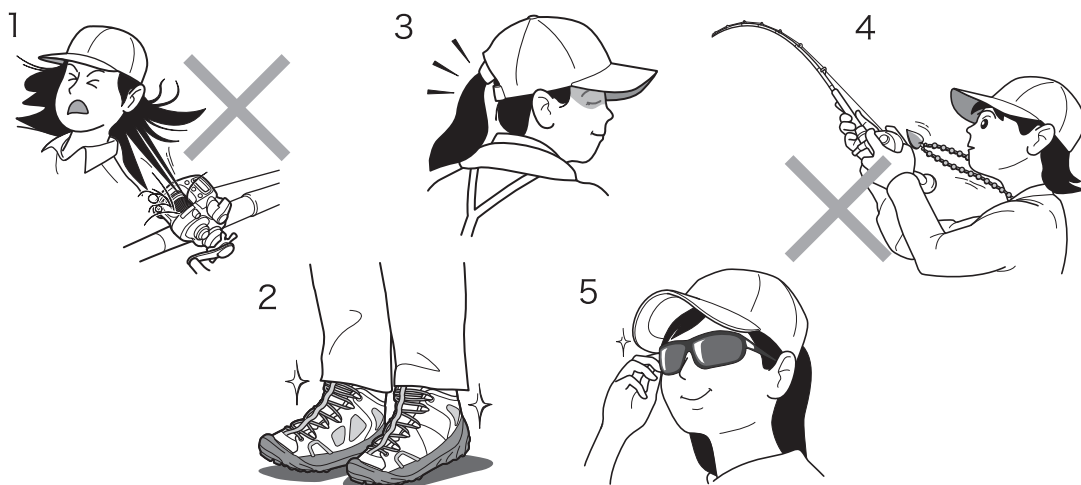
安全上のご注意

⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

●適切な服装・装備で使用してください。回転部に巻き込まれたり、飛散物により重傷・障害を負う可能性があります。

1. 髪、衣服、手袋を回転部に近づけないでください。
2. 滑りにくい履物を着用してください。
3. 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
4. ネックレスやネクタイ等不意に巻き込まれるおそれのある装身具は着用しないでください。
5. 偏光グラス、眼鏡等、目を保護する装備を着用してください。



●幼児の手の届く所では保管、使用はしないでください。リール本体だけではなく、包装品・付属品なども同様です。



保管注意!



●電動リールを使用されますと微弱な電波が発生し、補聴器・ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目まいが起こる場合がありますので、本製品のご使用はおやめください。



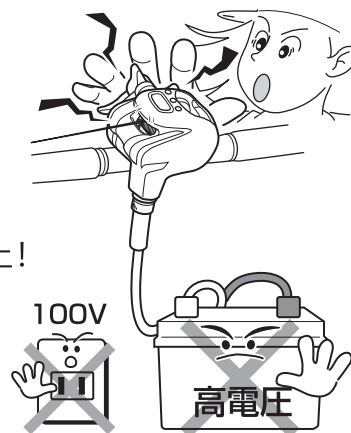
使用の禁止!



●バッテリー、船電源などを使用する場合は、所定電圧以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが異常発熱し、手をヤケドしたり、ICが故障したりするおそれがあります。家庭用(交流)電源にはつながないでください。回路がショートし発煙・発火する場合があります。



使用の禁止!



安全上のご注意

⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- バッテリーを水のような導電体に浸さないでください。バッテリーがショートし破損・火災・やけどを負うおそれがあります。



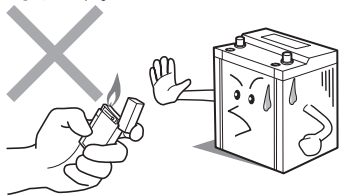
- ハーネスなどで電動リールを体に固定するのはおやめください。大きな魚により、海水へ引き込まれるなど、生命身体に危害が及ぶおそれがあります。



使用の禁止！



- リール・コード・バッテリーを可燃物・引火性物質（液体・ガス・粉塵）に近づけないでください。発火や爆発の原因になります。

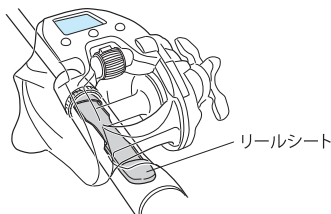


- 何らかの異常で釣りの最中にモーターが回り放しになった場合は、指をはさまれないよう、注意して、直ちに電源を外してください。

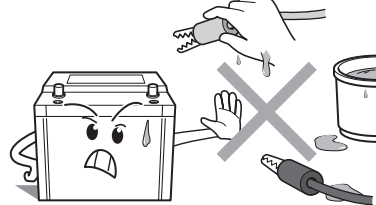


電源を外す！

- 電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定できない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、けがを負うおそれがあります。



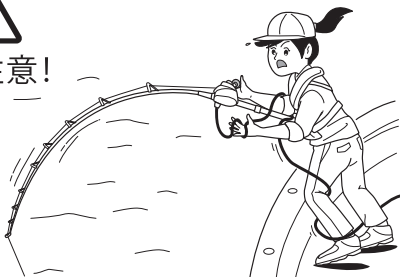
- バッテリーとコードの接続時には濡れた手で接続しないでください。感電するおそれがあります。たとえ天候が雨であっても、一度手をタオル等で拭いた上で速やかに接続してください。



- 体に電源コードが巻き付かないように注意してください。状況により海に引きずり込まれるおそれがあります。



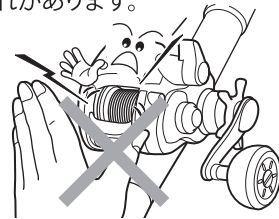
取扱注意！



- 駆動しているとき、駆動部分に触れないでください。けがをするおそれがあります。



接触禁止！

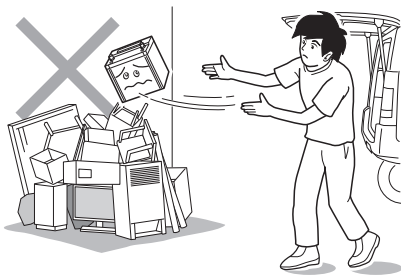


安全上のご注意

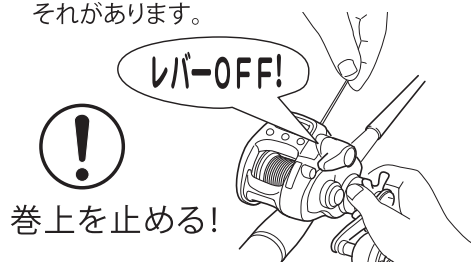
⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

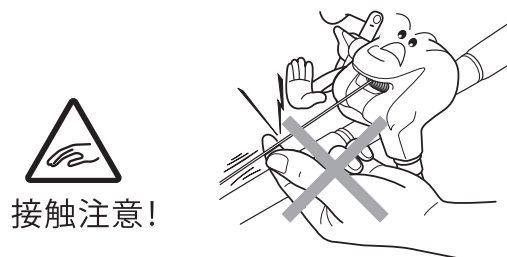
- 製品およびバッテリーを廃棄する際は国や各地域のルールに従い廃棄してください。



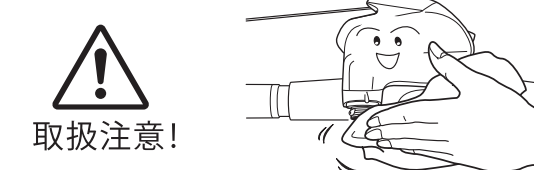
- ドラグ力を設定する際は、必ずその前に、電動自動巻き上げをレバーOFFにしてください。手で糸を引いてセットする場合等で、糸で手を切るおそれがあります。



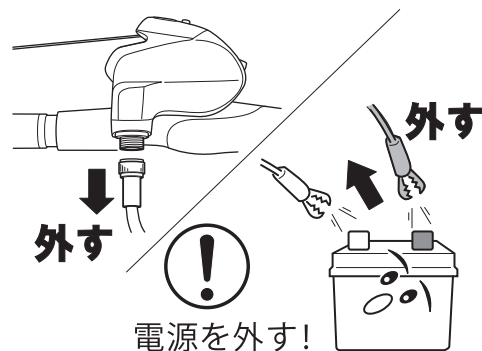
- 糸が勢いよく出ているとき、または、糸を巻いているときに、糸をつかまないでください。糸で指を切ることがあります。



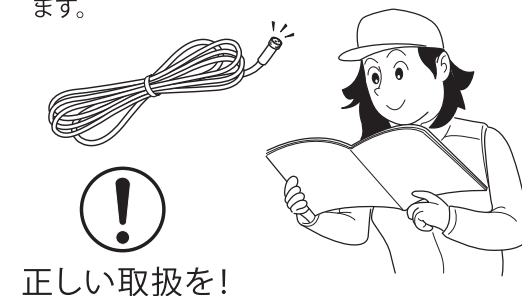
- 船上でコードの再接続をするときは、接続部に海水などの水分が付着していることがありますので、乾いた布でよく拭き取ってから、接続してください。そのまま接続すると、ショートして、感電・発煙・発火のおそれがあります。



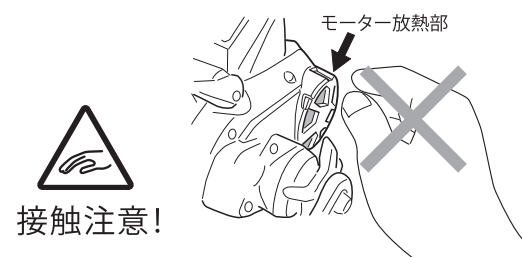
- 釣りにご使用にならない時は、巻上げレバー及び電源をOFFにしてください。意図しない動作をして、怪我等のトラブルになる可能性があります。



- 使用状況や保管状況によって、コードが断線、ショートなどの故障を起こし、発煙・発火に至る場合があります。『コード取り扱い上のご注意』、『コードのお手入れのしかた』、『その他お手入れ上のご注意』を必ずお守りください。なお、コードの手入れは、電源を外してから行ってください。古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年ないし使用60回での交換をお薦めします。



- モーター放熱部やドラグ発熱部には、手を触れない様ご注意ください。高温になる場合があります、やけどのおそれがあります。



安全上のご注意

⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷・障害を負う可能性が想定される内容のご注意。

- 分解・改良などはしないでください。リールの性能に不具合が生じたり、故障につながる原因となります。また製品保障の対象外となります。



改造の禁止!



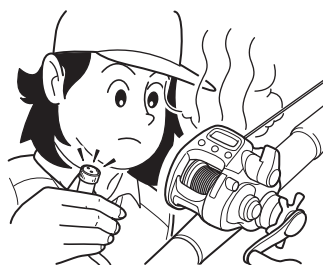
- コードの改造はしないでください。ショートなどの故障を起こし、発煙・発火のおそれがあります。



改造の禁止!



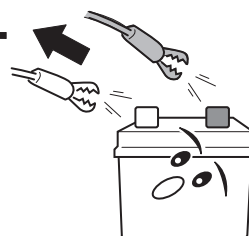
- こげくさい時や漏電など、異常時には直ちに駆動を停止して、電源を外してください。異常発熱や発火・感電などの原因になります。



外す

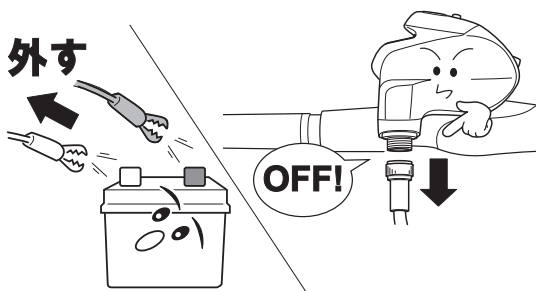


電源を外す!



- 電源を外すときは、駆動を停止してから、行なってください。故障の原因になります。
回転中の断電は、火花が発生し、発火・爆発の原因になります。

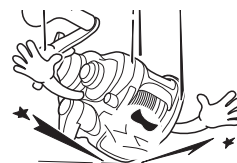
外す



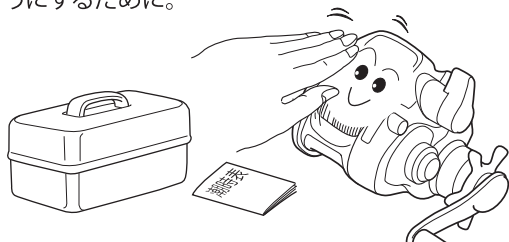
- 落下などのショックにより破損あるいは内部電子部品の損傷、クラックによる浸水、基板短絡が生じ機能障害を起こします。強い衝撃や重圧が加わらないようご注意ください。(外観上には異常が見られなくても故障していることがあります。) また落下により、怪我をするおそれがあります。



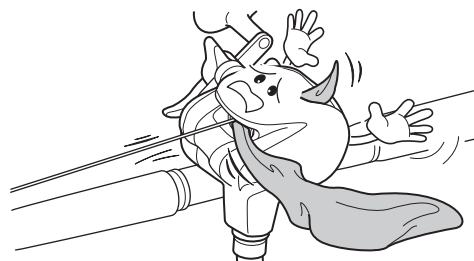
取扱注意!



- 釣りにお出かけの前には、リールの点検(動作点検)を行なってください。
故障によって、釣行に支障をきたすことのないようにするために。



- 糸巻き中に布・衣服・髪などが巻き込まれないように、ご注意ください。
また、バックラッシュ等によりフケた糸の巻き込みにもご注意ください。



安全上のご注意

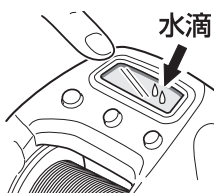
⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

- リールを落としたり、衝撃を与えたりすると、カウンターや本体にヒビや割れ等が発生し、水が浸入することがあります。その状態で使用すると、モーターの制御不能等でけが等に繋がるおそれがありますので、ご使用はおやめいただき、お近くのDAIWA取扱店に持ち込み、修理にお出ください。



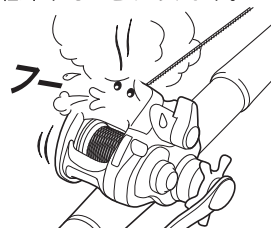
使用の禁止!



- 屋内で糸を巻くときは、高速で行ってください。低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に発熱し発煙するおそれがあります。また、電動巻上性能が低下することがあります。



取扱注意!



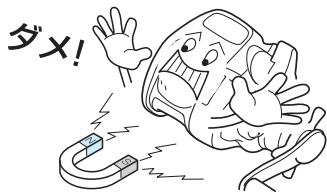
- 他の釣り人と仕掛けが絡んだり、根掛かりしたときは、無理に巻かないでください。竿その他を破損するおそれがあります。



取扱注意!



- 磁石等磁力のある物は近づけないでください。誤動作や故障の原因になります。



- 根掛かりしたときは、竿をあおらず糸を手にとって切るようにしてください。(手袋やタオルで必ず手を保護しましょう。)

太いハリスをご使用になっている場合、手で持って切れそうもないと思われるときは、船長に相談して安全に対処してください。



けがに注意!



- リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、服を汚さないように注意してください。



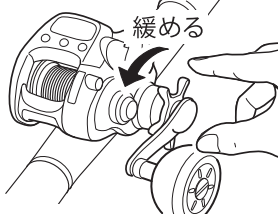
取扱注意!



- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分に緩めてから接続してください。
I C 故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損するおそれがあります。



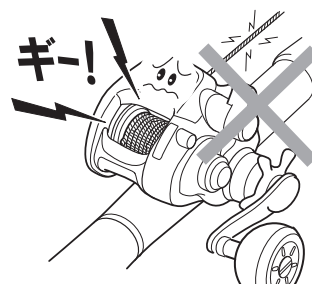
取扱の実施!



- ワイヤーは、道糸として使用しないでください。スプールが腐食したり、破損したりすることがあります。



使用の禁止!

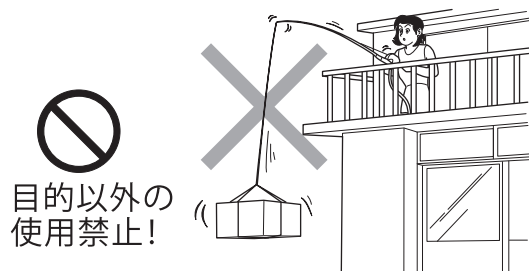


安全上のご注意

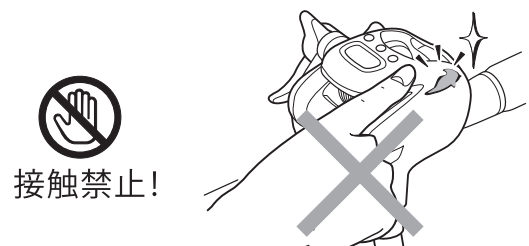
⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

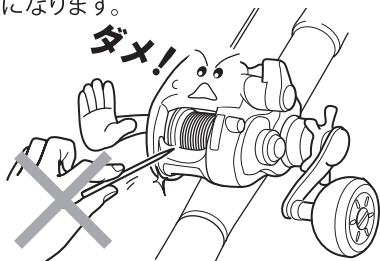
- リールを釣り以外の目的で使わないでください。



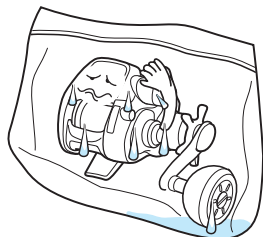
- 塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面が剥れた場合は、その部分に触れないでください。けがをするおそれがあります。



- スプールとフレームのスキマやその他本体のスキマに棒や金属物などを入れないでください。故障の原因になります。



- 濡れたままビニール袋やバツカンなどで、リールを保管しないでください。錆や故障の原因になります。



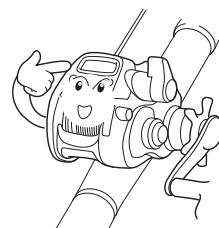
- 使用中で、カウンター表示がずれてきたり、道糸が切れたり、電源が外れたり、大きな張力変動があったりしたときは、カウンター表示の再設定を行ってください。

そのまま再度使用しようとすると、巻き込んで竿その他を破損するおそれがあります。

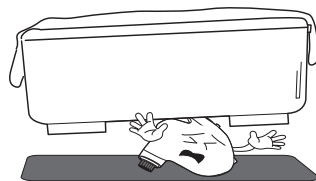
水面に仕掛けがある位置でのリセットを忘れた場合も同様のことが起こるおそれがあります。



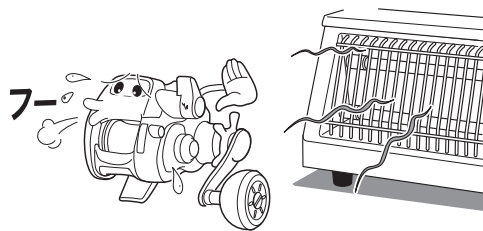
操作の実施!



- リールの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。

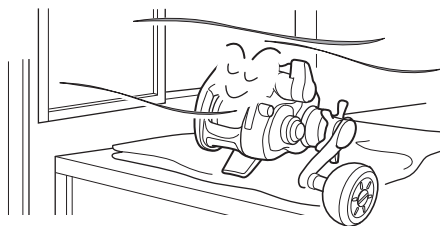


- 発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。



- リールを長期間収納するときは、水分を完全に切り、直射日光を避けなるべく通風性のよい場所に保管してください。

また、ドラグを緩めた状態で保管してください。

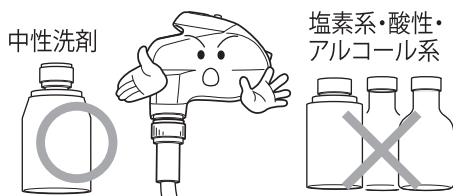


安全上のご注意

⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

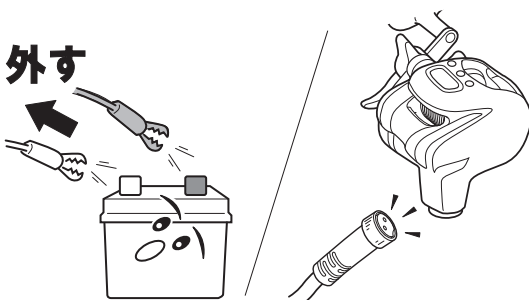
- 電動リールを洗剤で洗うときは、中性洗剤を薄めて使用してください。塩素系、酸性及びアルコール系洗剤は使用しないでください。樹脂が劣化して、故障の原因になります。



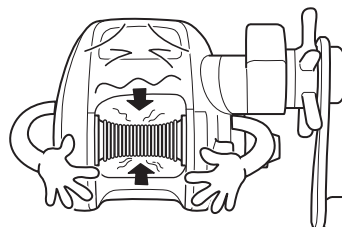
- 塩分を含んだ海水で道糸が湿った状態のまま保管するとスプールが腐食するおそれがあります。水道水を糸巻き部にあたるように掛けて海水を十分流してから通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。



- リールを使用しないときは、電源・コードを外しておいてください。使用中は目の届く範囲で管理してください。



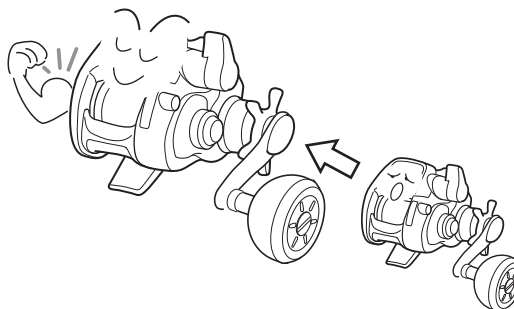
- 水気を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールを破損するおそれがあります。特に、PE専用機種には、ナイロン・フロロラインなどを巻かないでください。



- 船べり停止位置は巻き上がる張力により変動します。強い張力で巻上げをした場合は、ゼロリセットは行わないでください。
※船べり停止点設定には余裕を持ってください。ギリギリに設定すると竿を折る可能性があります。



- ブレーカーが何度も作動する場合は、リールサイズが釣り方・ターゲットに合っていないので、最適なスペックサイズのリールをご使用ください。



安全上のご注意

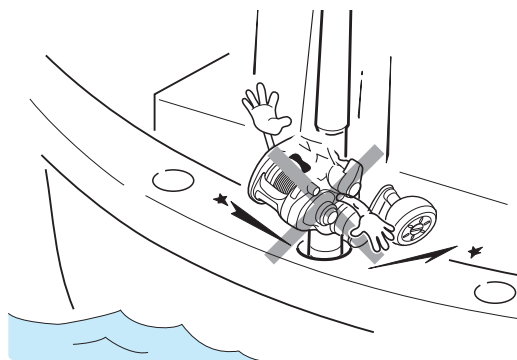
⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、怪我や物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

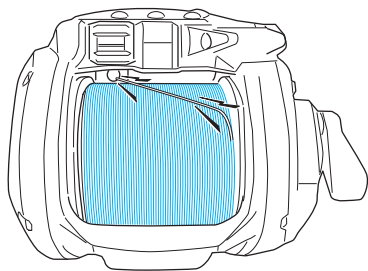
- 振り出しロッドを仕舞い込む際に、リールをつけたまま竿尻を床面等にトントン叩いて仕舞わないでください。リールが破損するおそれがあります。



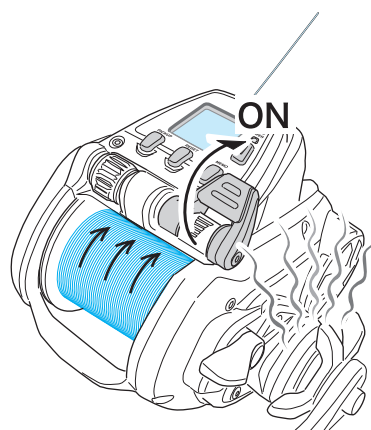
- 船べりの穴へ竿にリールをつけたまま入れる場合は、船べりにリールが直接当たらないか確認してください。当たる場合は、穴へ入れることはおやめください。リールを破損するおそれがあります。



- 糸を全て巻き込んでしまう等により、レベルワインドの動きと、ラインの引出し位置がシンクロしない状態でご使用を続けると、仕掛け落下性能・ドラグ引出し性の悪化や、場合によってレベルワインドの破損・また破損したパーツによるケガ等につながりますので、おやめください。
上記のような状態になった場合は、ご使用分の道糸を全て引出し、再度巻き直しをお願いします。



- 電動巻き上げ時において、モーターONでドラグが滑ってスプールに糸が巻き取れていない状態を長く続けると、ドラグ部のグリスやワッシャーが高温により煙となり、焼きつくことでブレーカー作動および本体の破損へとつながる場合があります。ご注意ください。
上記のような状態ではリールの一部が高温になりますので、直接触ってやけどをしないようにご注意ください。
上記のような状況が発生した場合、ドラグや周辺部品が本来の性能を発揮しない可能性がありますので、オーバーホールをお勧めします。



- 高張力、高速度でのドラグ引出しが長距離繰り返されると、ドラグ部のグリスやワッシャーが発熱し煙となり、高温による本体の破損へとつながる場合があります。
上記のような状態ではリールの一部が高温になりますので、直接触ってやけどをしないようにご注意ください。
上記のような状況が発生した場合、ドラグや周辺部品が本来の性能を発揮しない可能性がありますので、オーバーホールをお勧めします。

安全上のご注意

取扱上のご注意

電動リールの取扱いで特に注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

■マグシールド

「マグシールド」は磁性を持つ液体を利用することで、磁性を持つ液体の壁を作り、水の浸入をシャットアウトする画期的構造。滑らかな回転はそのままに、水、異物の侵入を抑えることで初期回転性能を長期間持続。イヤな塩ガミがなくなることで、長期間使用時の回転低下や異音を改善し、耐久性が大幅に向上。

■マグシールドボールベアリング

独自の技術により、ボールベアリングそのものをマグシールド化。磁性を持つ液体の壁によって、ボールベアリング内部への水、異物の侵入を抑えることで、ボールベアリング自体の錆、塩ガミ、異音を大幅に解消。



- ・マグシールドボールベアリングそのものへの注油は絶対におやめください。マグシールド機能を損ないます。
- ・分解作業は絶対におやめください。マグシールド機能を損ないます。



- マグシールドボールベアリングの優れた防錆・防塵性能は、内部に封入された磁性を持つ液体（マグオイル）の壁により維持されています。
- ・マグオイルはやや多めに封入されているため、ボールベアリングの表面にマグオイルが滲み出ることがありますが、性能には影響ありません。（表面の滲み出たオイルは拭き取らないでください。）
 - ・マグシールドボールベアリングを指や、布、綿棒等で触れたり、拭いたりすることは絶対におやめください。マグオイルが拭き取られることにより、マグシールド機能を損なうおそれがあります。

◆カウンター部について

- ① 真冬（カウンターの表面温度－10℃以下）および真夏（カウンターの表面温度60℃以上）
- ※ 上記の場合には、液晶の特性上文字が見にくくなることがございます。ご了承ください。
- ② 早朝や夕方など太陽光の入射角によって液晶表示の影が見えることがありますが異常ではありません。

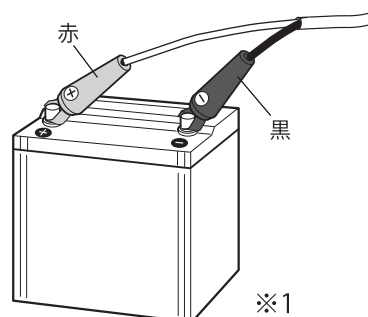
登録商標：DAIWA登録商標を取得した製品です。類似品にご注意ください。また偽装品の製造・販売は各国の法律により罰せられます。

電源について

●電源とのつなぎ方

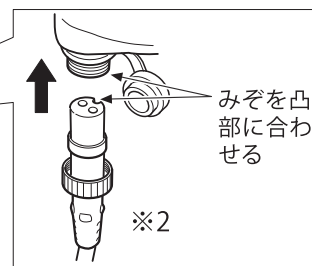
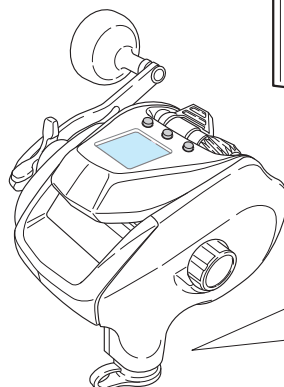
- 1.まず、コードのクリップ(2つ)と電源をつないでください。

クリップは赤いカバーのほうプラス $+$ 、黒いカバーのほうがマイナス $-$ です。

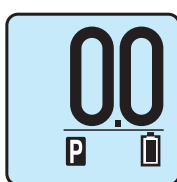


- 2.次に、付属コードのコンネクターとリール本体をつないでください。

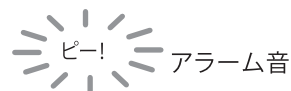
※以上の手順が正しく行なわれると、下図のように表示变化したうえで、セットされます。



(電源投入画面)



(水深画面)



警告

※1: 土を逆に接続すると通電しません。またバッテリーおよび本体・コードが破損するおそれがありますのでご注意ください。

※水や海水など濡れた手で電源の接続はしないでください。感電する可能性があります。天候が雨の場合には、ゴム手袋を着用して接続作業をしてください。

※2: 誤った接続をすると通電しません。またコードがショートし破損の原因となりますのでご注意ください。

*可燃物・引火性物質を電源及びリールの近くに設置しないこと。火災の原因になります。リチウムバッテリーの直列接続は絶対にしないでください。火災の原因になります。



注意

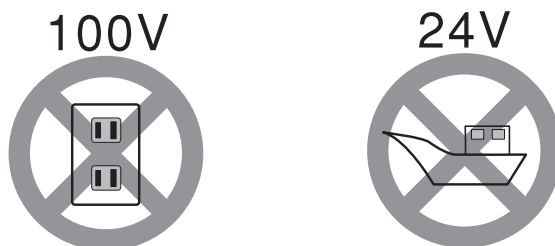
・1度電源につなぐと、メモリーバックアップ(カウンター情報の保存)機能が働くため(最低15分間)、その後の電源との再接続時には、上記の表示変化がされないでセットが完了するケースがありますが、問題はありません。

電源について

●電源について

このリールは直流 (DC) 12V～16.8V対応の電動リールです。指定外の電源 (たとえば、家庭用の交流 (AC) 100V、船装備の直流24Vなど ※一部24V対応機種を除く) では使用できません。

なお、船電源は、発電機や配線の関係で電圧が不安定になりやすく、リールの保護回路が働いて回転が停止したり、断続的になってしまうことがあります。リールの性能を十分に発揮させるためにも、電動リール専用バッテリーをご使用ください。



警告

1. バッテリー側の原因による故障・損害は補償しません。
※ダイワの電動リールに使えると表現している電池がありますが、ダイワはその製品規格・安全性その他に一切かかわっておらず、ダイワは使用をお薦めしません。もしご使用になってなにかの事故・損害その他が発生してもダイワは一切責任を負いません。どうしてもご使用になる場合は自己責任でお使いください。また特にリチウム電池については大きな事故を引き起こす可能性が高いため、特にご注意ください。
2. 船電源を使う場合、船側に損害が生じる場合があります。
※船電源を使う場合はエンジン切った状態で容量を使い切らないこと。
※エンジンが始動せず遭難します。
3. このリールは直流 (DC) 12～16.8V駆動です。
※もしこれよりも高い電圧、もしくは家庭用電源を接続すると電動リールの電子回路に損傷を与え、モーター制御不能になります。煙の発生や火災につながりますので、電源環境やその仕様については必ずご確認ください。

注意

1. 指定電源以外は使用不可
電源は防水性の確保されたマリン用DEEPCYCLE/バッテリーを推奨します。
また、指定のリチウム電源 (販売国) のみ対応可。
※お近くのDAIWA取り扱い店に問い合わせください。
2. 家庭用電源・船親電源から直接つないで使用すると破損のおそれがあります。
3. バッテリーは、長時間放置されると自然放電 (残量低下) している可能性があります。釣行前には、必ず充電を行なってください。
4. 船の電源は、電圧、接続端子の形状などにより使用できないことがあります。事前にご確認することをおすすめします。
・端子のサビなどによりリールが正常に作動しない場合があります。サビなどは取り除いてご使用ください。
5. 正しい電圧出力のバッテリーを使用してください。低電圧時に高負荷の巻上げを行うと、電子部品にダメージを与える可能性があります。

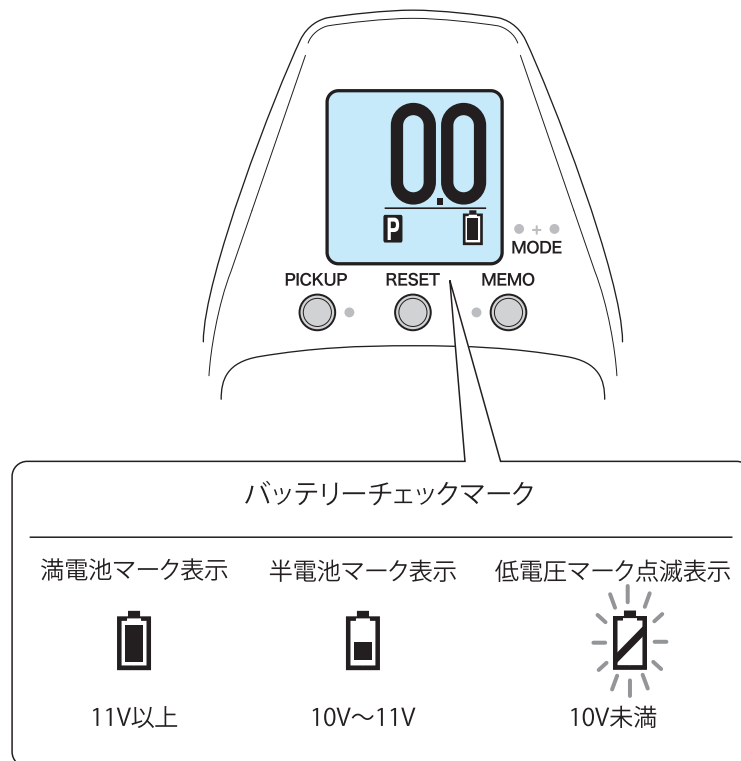
電源について

●バッテリーチェック表示について

通電時に、電源電圧が低下すると、下記のようなバッテリーチェックマークが表示されます。

10V以下では巻き上げ出力が制限され、最大限発揮できないことがあります。

モーター回転がストップしているときにこの表示が点滅している場合、バッテリー残量の減少による電圧低下が考えられます。そのときには、バッテリーを充電したものと交換してください。（船電源をご使用の場合は、電源の電圧や端子をチェックしてください。）



※リールの検知電圧は、実際の電源電圧と多少誤差がある場合があります。

※バッテリーが切れカウンター表示が消えた状態で（魚とのやりとり等で）手巻きで糸を巻くと水深カウンターが狂い、次のバッテリーで電動巻き上げた時に糸を巻き込み、竿先を折る可能性がありますのでおやめください。カウンターが消えたら、そのままの状態でのバッテリーを交換してください。

※カウンター表示が消えた状態で手巻きで糸を巻いた際は、次回投入前に必ず水面ゼロリセットをおこなってください。カウンター数値が狂った状態ですので、巻き込みにより竿を破損するおそれがあります。



●バッテリー残量不足の表示が出た場合は、電動巻き上げやIC機能等に不具合が起こりますので、十分に充電されたバッテリーと交換してください。

お手入れ方法

●リールのお手入れについて

このリールは水洗いできる「洗える電動リール」です。釣りが終わった後で汚れなどをきれいに洗い流してください。

●お手入れ方法

1. 中性洗剤を含ませた、柔らかいスポンジなどでリール本体を洗い、汚れを落とします。

※汚れがひどい場合に使う洗剤は、中性洗剤のみを薄めて使用してください。

※使用量目安：水1ℓに対して1.5mℓ

液体（薬用）石鹼など石鹼類及び弱アルカリ性など中性以外の洗剤のご使用はおやめください。故障の原因になることがあります。

2. 水をかけて洗剤と汚れをよく落としてください。スプール部にもよく水をかけて塩分を落としてください。

給湯器をご使用の際は、温度設定を30℃以下としてください。

3. よく水を切り、陰干ししてください。

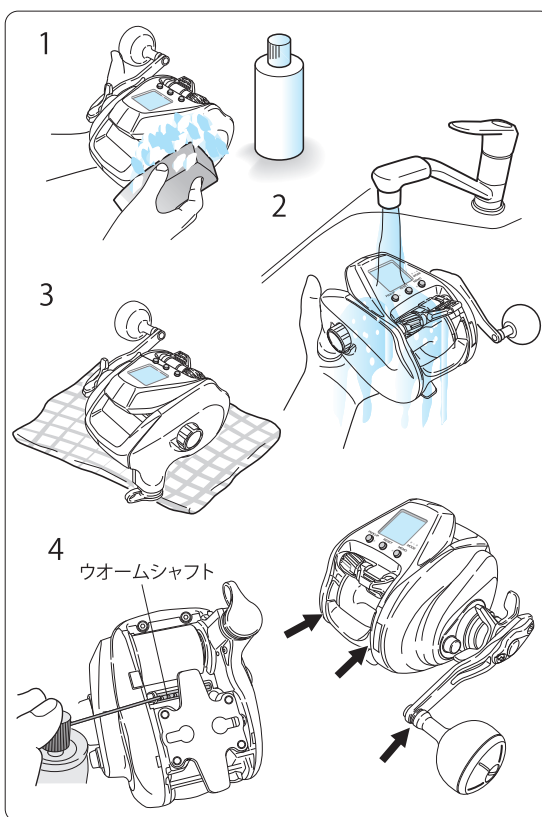
※保管の際は、ドラグを緩めてください。

4. ウォームシャフト、ハンドルノブ、クラッチに注油してください。

グリスの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。

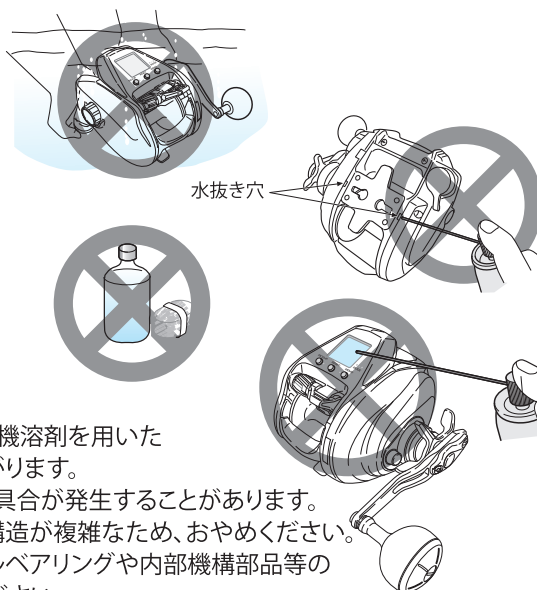
※推奨グリス：純正リールガードグリス

（商品コード：2 380027）専用スプレーは釣具店にてお取り寄せください。



⚠ 注意

- ・海水で洗ったり、水の中につけて洗うことは絶対にしないでください。
- ・ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- ・リール本体に傷が付きますので、みがき粉、タワシ、スチールタワシなどは絶対に使用しないでください。
- ・注油したオイルがはね返り噴き出す可能性もあるので、のぞき込まないでください。
- ・水抜き穴への注油は、絶対にしないでください。
- ・本体に磁力を近づけないでください。
- ・ICカウンター周辺への注油や化学薬品類等の有機溶剤を用いた洗浄はしないでください。電装部の故障につながります。
- ・注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。
- ・ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。
- ・市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリングや内部機構部品等の耐久性を損なうおそれがありますのでおやめください。
- ・使用しないときには付属のリールバッグに包んで保管してください。



お手入れ方法

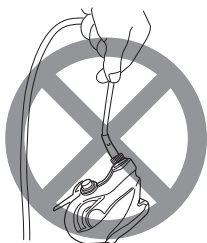
●コード取扱い上のご注意

コードの断線等によるトラブルをさけるために必ず守ってください。

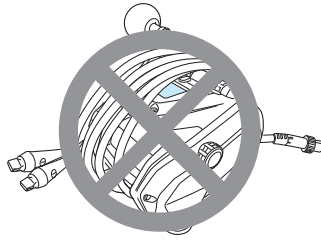
付属の専用コードをご使用ください。

※他のコードとは互換性がないのでご注意ください。

※コードを改造することはおやめください。思わぬ故障の原因となります。コードは大切にしてください。



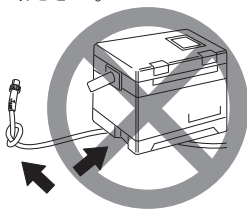
・コードを持ってリールをぶらさげることは、おやめください。



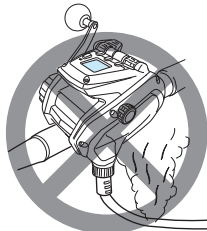
・リール本体にコードを差し込んだまま本体にぐるぐる巻き付けることは、おやめください。



・コードを水洗いすることは、おやめください。



・コードの上に重い物を乗せたり、コードを結んでしまうような行為は、おやめください。



・煙や異臭などの異常が発生した場合、ただちに使用を中止し、バッテリーから外してください。



・ご使用の際、コードを足で踏んだり、荷物などに引っ掛かったままアワセ動作などで強く引っ張ると、外観に異常はなくても内部の電線が切れる可能性があります。

●コードのお手入れのしかた

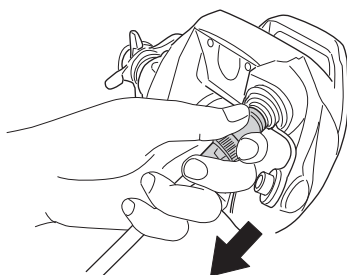
・ご使用後は、水道水または温湯で浸した柔らかい布で、外観部の汚れを拭き取り、よく乾かしてください。

・特に、フニグチクリップは、カバーを外して、完全に乾かしてください。

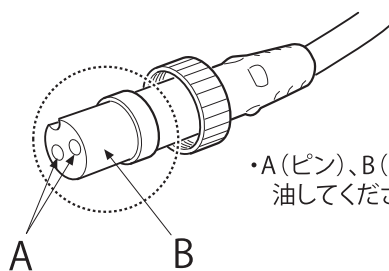
・乾燥後は、コネクター部の注油を行なってください。

※推奨グリス：SLPWコネクターグリス501（商品コード：4 386502）専用グリスは釣具店にてお取り寄せください。

・リールのコードは、本体から外して保管してください。



・コードを抜くときは、必ずコネクター部を持って抜いてください。



・A（ピン）、B（外周部）に注油してください。

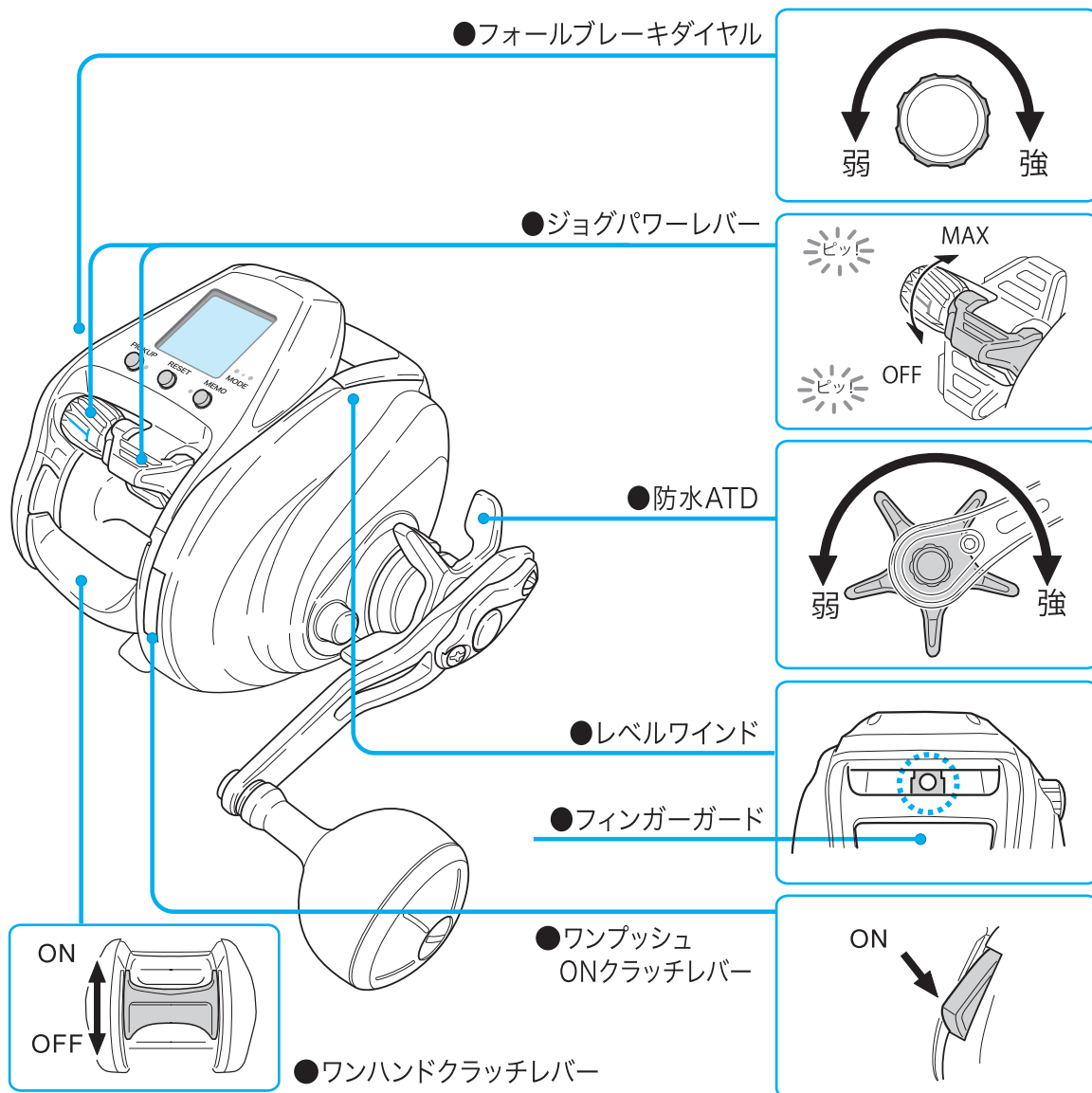
●その他お手入れ上のご注意

・このリールは電気回路、モーターなどの精密な部品を内蔵しておりますので、お客さまご自身での分解組み立ては極めて困難です。おやめください。

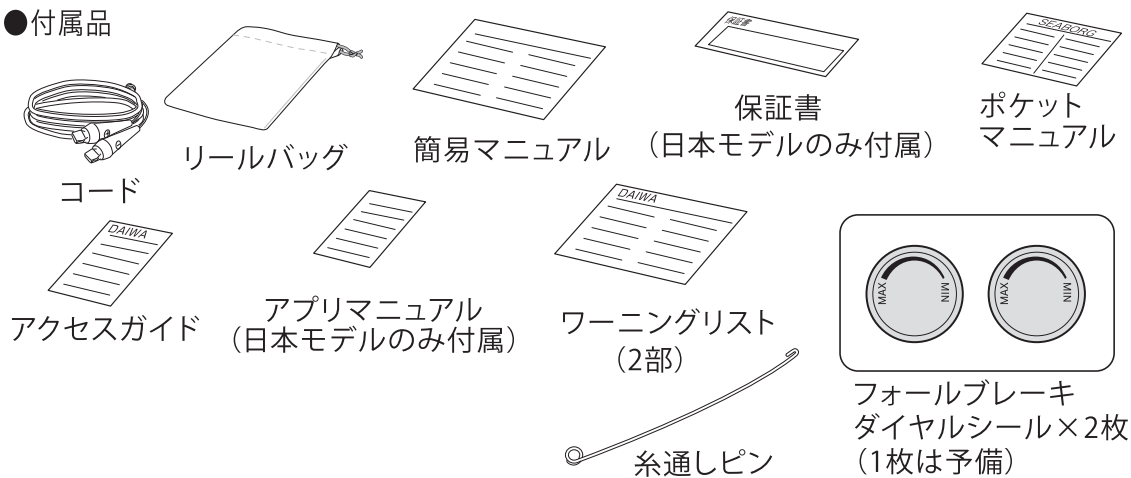
・コネクター部保護のため、リールをご使用にならないときは防護用コネクターキャップでフタをしてください。

・古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年ないし使用60回での交換をお勧めします。

各部の名称と機能



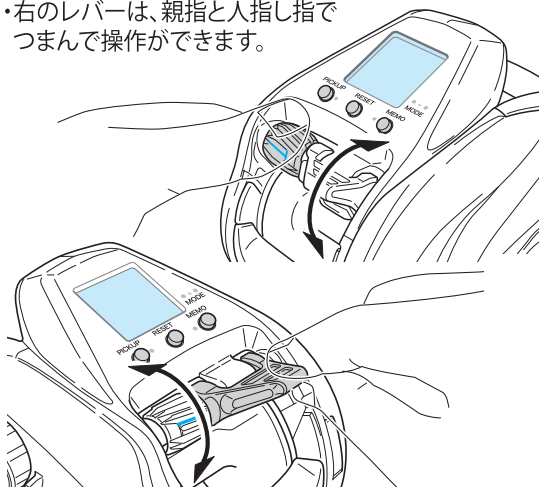
●付属品



各部の名称と機能

●ジョグパワーレバー

- 左のレバーは、親指で転がして操作ができます。
- 右のレバーは、親指と人差し指でつまんで操作ができます。



- レバー操作により巻上げ出力(パワー/スピード)をOFF～MAXまで自由自在に変速させることができます。
- レバーを前(MAX側)に倒すと、出力がアップします。レバーを元(OFF側)に戻せば、出力がダウンします。
- 巻上げを開始するとき、レバーがOFFの位置にないときは、レバーを一度OFFの位置まで戻して(OFFの位置でアラームが鳴ります)から、レバーを前に倒して巻上げを開始してください。
- 船べり停止位置付近では、安全のためレバー操作がきかない場合があります。
- 巻き上げ負荷の変動等で、レバーの設定表示が上下する場合がありますが、異常ではありません。

●防水ATD

※ドラグノブクリック付き

- スタードラグの締め付けを調節することにより、魚の急激な引きに対応し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。
- 1.リールをロッドにセットし、ラインをロッドのガイドに通してから調節してください。
- 2.クラッチONの状態、手で糸を引き出しながらドラグの締め付けを調節します。通常は、糸(ハリス)が切れる寸前にスプールが空転するように調節します。

●ワンプッシュONクラッチレバー

- クラッチOFFの時、レバーを押すとクラッチがONになります。
- ロッドを持っている手で素早くクラッチがONできます。

●ワンハンドクラッチレバー

- 親指で軽く下に押すだけでクラッチが切れます。
- ◆ONの時→ハンドルを回すと糸が巻き取れます。
- ◆OFFの時→スプールがフリーになります。ハンドルを正転方向に回せばクラッチONになります。

●モーターON/OFF連動クラッチ

- 電動巻上げ(モーター回転)中にクラッチをOFFにすると、モーター回転が一旦停止し、再度クラッチをONにすると電動巻上げ(モーター回転)を自動で再開します。
- フォール中における魚のアタリや、イカの触りなど繊細なアタリを捉えることができます。
- 糸送りONの際は、モーターON/OFF連動クラッチはOFFになります。

●フォールブレーキダイヤル

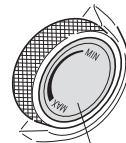
- 仕掛けの落下スピードをダイヤル操作で瞬時に設定できるブレーキシステムです。バックラッシュ(糸フケによるパーマ)も防止します。船の揺れや仕掛けの重さなどにより、締め付けぐあいを目印に沿って調節してください。

●レベルwind

- ガイドに糸を通します。糸がスプールに平行に巻けます。
- ※糸を巻く際の条件により、スプールへの糸巻き状態に若干の片寄りが見られる場合があります。

●付属品

- コード・リールバッグ・アクセスガイド・ワーニングリスト
- 簡易マニュアル・保証書(日本モデルのみ付属)
- ※モーターのみ3年保証
- ポケットマニュアル(ジギングモード操作方法)
- アプリマニュアル(日本モデルのみ付属)
- 糸通しピン
- レベルwindに糸を通すときに使います。
- フォールブレーキダイヤルシール:2枚(1枚は予備)
- 落下スピードをある値に設定する場合は、付属のフォールブレーキダイヤルシールを貼って、目安としてお使いください。



フォールブレーキダイヤルシール

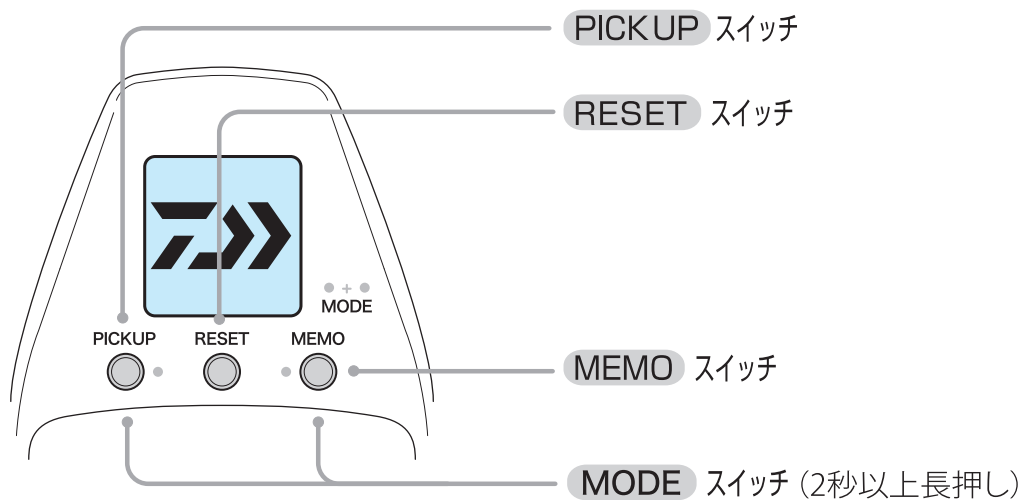
※リモートジョグは別売となります。

⚠ 注意

※キャスティングを行うと、キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。周囲の人やご自身に当たるなど、大変危険です。ギアや内部パーツの破損に繋がるおそれがあります。絶対に行わないでください。

※糸の巻き上げを行っている時に、クラッチレバーの上に指を置かないでください。また、クラッチレバーを押し込んだ状態でアワセやハンドルを回さないでください。クラッチおよびストッパーの故障や破損につながります。

スイッチの名称と働き



●RESET

- ・釣りを始める前に必ず一度 **RESET** スイッチ を押してください。
スイッチを押した点を基準に船べり停止点が設定されます。
- ・長押しで糸切れ時のデータ修正ができます。

●MEMO

- ・底からカウンターのリセットやタイマーの再スタートに使用します。
- ・長押しで船べり停止点の設定ができます。
- ・メニュー内では **OK** スイッチとなります。

●PICKUP

- ・チョイ巻・止やジギングモードに使用します。
- ・メニュー内では **戻る** スイッチとなります。

●MENU

- ・ **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒以上押すと各種便利機能の設定画面となります。

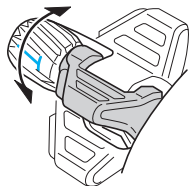
はじめに

最初に電源に接続して言語を選択します。

1. リールを通电させてください。

※接続方法についてはP.10「電源のつなぎ方」を参照してください。

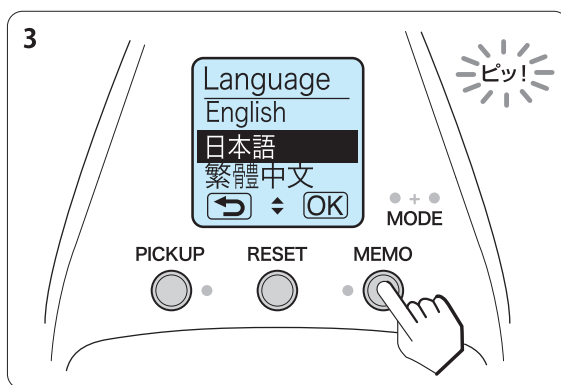
2. ジョグパワーレバーで言語を選択してください。



3. 選択した言語で問題無いか確認して
OK (MEMO スイッチ) を押します。



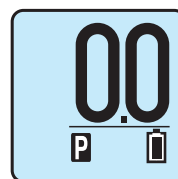
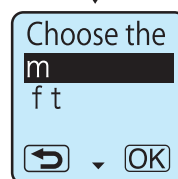
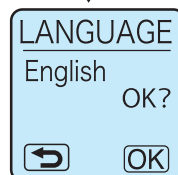
(電源投入画面)



(メニュー画面)



4. 「English」を選択した場合のみジョグパワーレバーで単位を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



5. 水深画面に移行して設定完了です。

注意:

初回に設定した言語と単位は後からでもMENU画面内で変更できます。

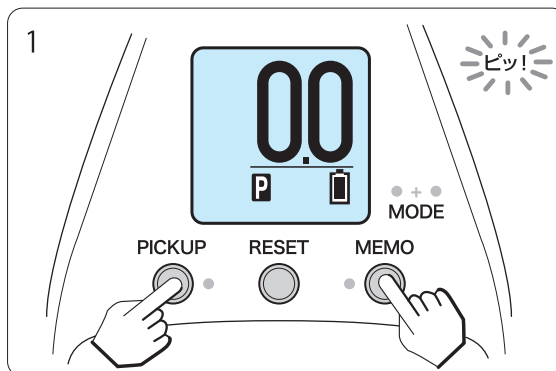
※詳細はP.63「言語選択」、P.64「単位選択」を参照してください。

機能設定の基本操作「1.メニュー画面の使い方」

●便利機能の設定のしかた

・メニューの中には便利な機能が満載されています。
※セットした機能は、次の釣行もメモリーされています。
(設定直後に電源を切った場合、メモリーされない場合があります。)

- 1.表示が **0.0** のときに
MEMO スwitchと **PICKUP** スwitch
を同時に2秒間押し続けてください。

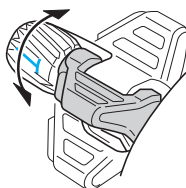


(水深画面)

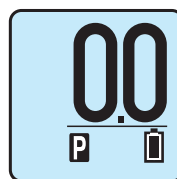
- 2.ジョグパワーレバーで各機能を選択し
OK (**MEMO** スwitch) を押して、各種設定
を行います。

※各機能の詳しい設定方法は、下記のページをご確認ください。

ジョグパワーレバー
でメニューを選択



MEMO スwitch+
PICKUP スwitch (長押し)



(水深画面)



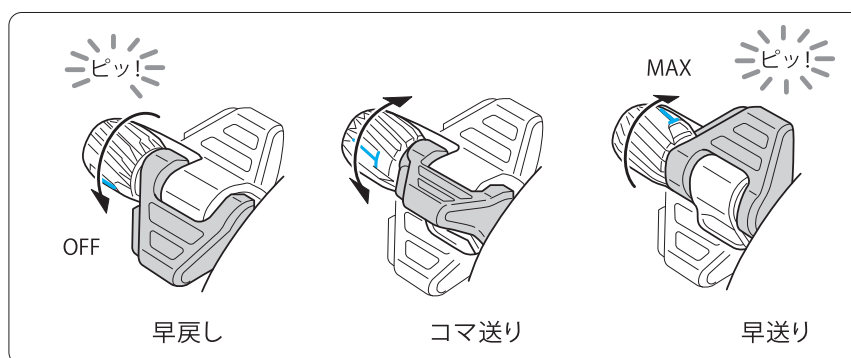
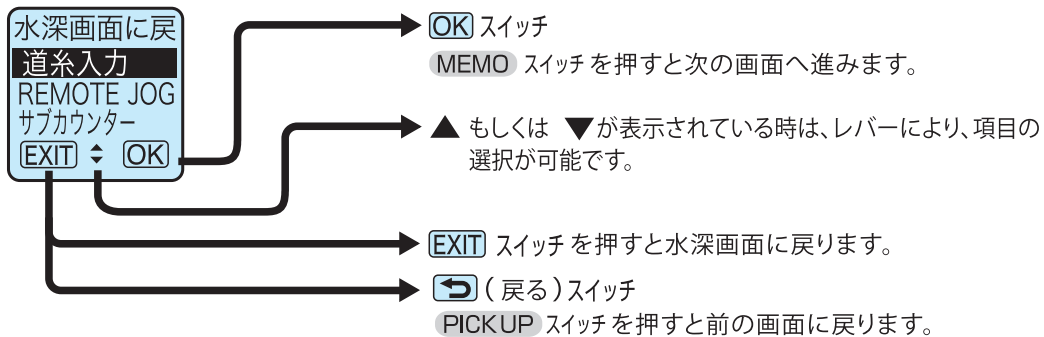
(メニュー画面)

水深画面に戻	
道系入力	→ 『21～33へ』
REMOTE JOG	→ 『34,35へ』
サブカウンター	→ 『36～38へ』
船べり停止	→ 『40,41へ』
ジギングモード	→ 『44～48へ』
チョイ巻/止	→ 『43へ』
糸送り	→ 『42へ』
タイマー巻上	→ 『53へ』
フカセモード	→ 『55,56へ』
アラーム音	→ 『62へ』
一定速巻上	→ 『54へ』
ドラグ音	→ 『50へ』
テプスアラーム	→ 『51へ』
水深補正	→ 『57,58へ』
実釣来歴	→ 『59へ』
Language(言	→ 『62へ』
単位	→ 『63へ』
認証	→ 『63へ』
EXIT ◀ OK	

機能設定の基本操作 「1.メニュー画面の使い方」

■メニューの操作方法

メニュー画面を例にご説明致します。



3.設定が終了したら、水深画面へ戻り釣りを始めてください。

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。
(PE4号500mを巻いて入力することを例にしてご説明します。)



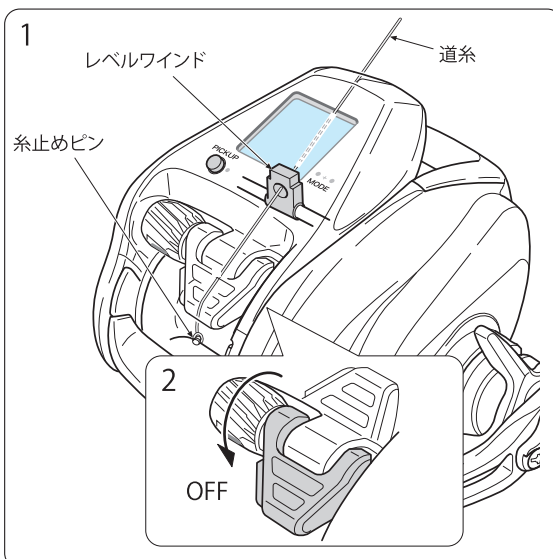
やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.道糸をレベルwindに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
※ドラグを締め付けてください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



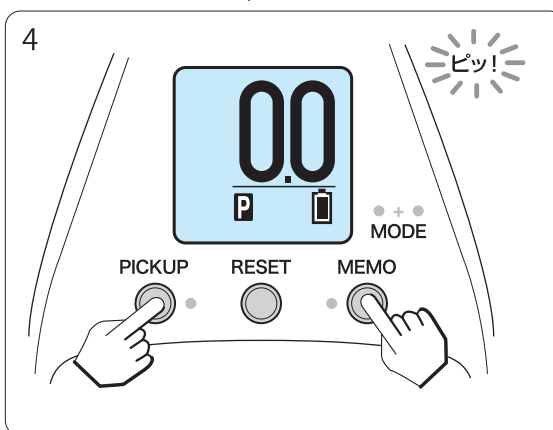
3.リールを通电させてください。

※接続方法についてはP.10「電源のつなぎ方」を参照ください。



(電源投入画面)

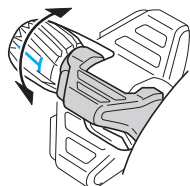
4.表示が **0.0** のときに
MEMO スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

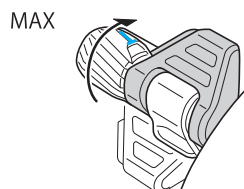


※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

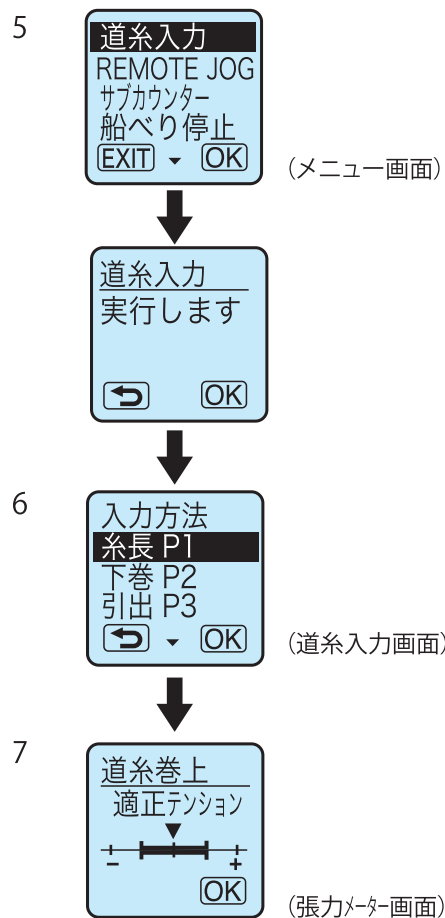
※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび OK (MEMO スイッチ) を押します。

6. 「糸長 P1」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

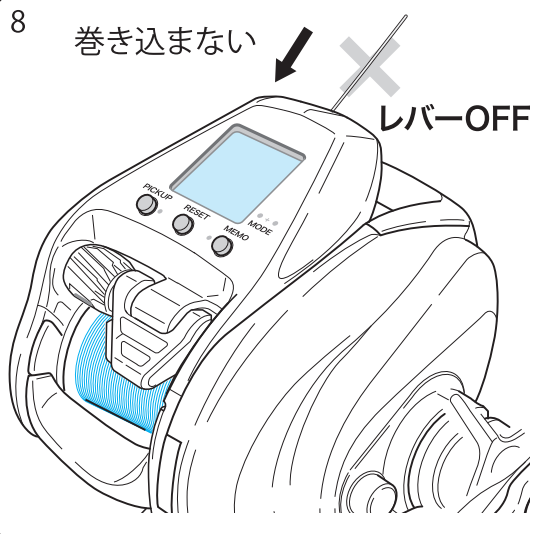
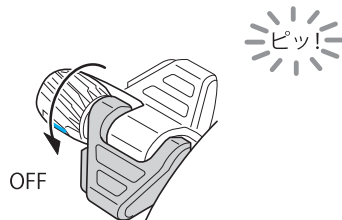


注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますので心配ございません。

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

8. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFF位置まで戻し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



注意

- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- ・この入力方法はPE2号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPEが入り込むおそれがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお薦めします。

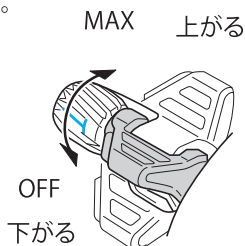
9. ジョグパワーレバーで、道糸の長さを選択 **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

※桁を変える際は **RESET** スイッチ を押してスクロールしてください。

※図は、500mにセットした場合です。

※初期設定値は、500mです。

※10m単位で設定できます。

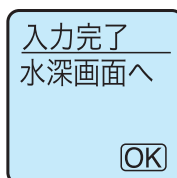


9

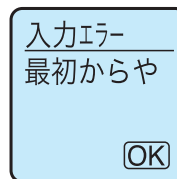


10. 入力完了画面が表示されたら **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

10



※入力エラー画面が表示された場合は、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

長さのわかる道糸が100m以上必要です。



やけどに注意!

道糸入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.下巻用の糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

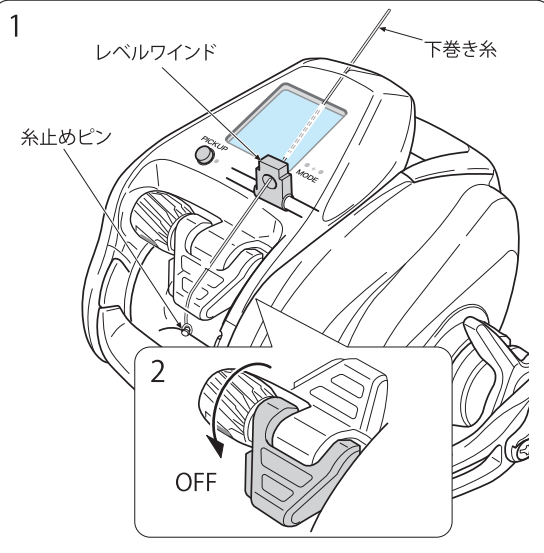
※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。

※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

※ドラグを締め付けてください。

※既に下巻が完了している場合は、そのまま次へ進んでください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



3.リールを通电させてください。

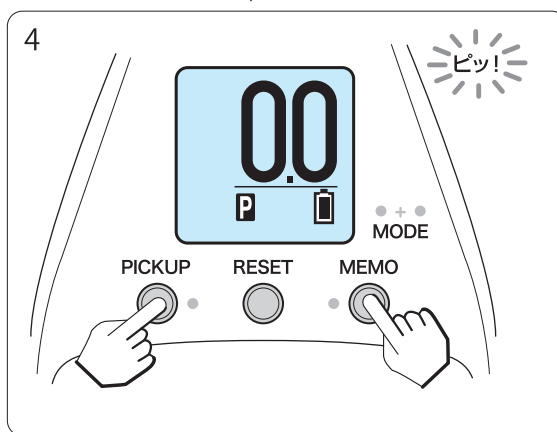
※接続方法についてはP.10「電源のつなぎ方」を参照ください。



(電源投入画面)

4.表示が **0.0** のときに

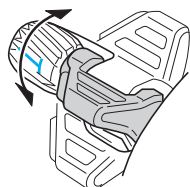
MEMO スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび OK (MEMO スイッチ) を押します。

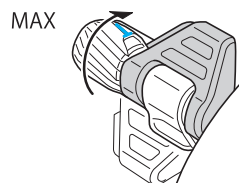
6. 「下巻 P2」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

7. 下巻用の糸を巻き、巻き終わったら
OK (MEMO スイッチ) を押します。

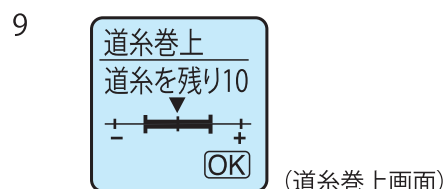
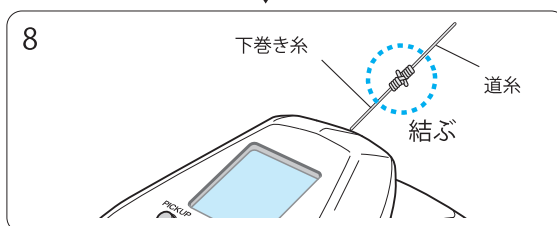
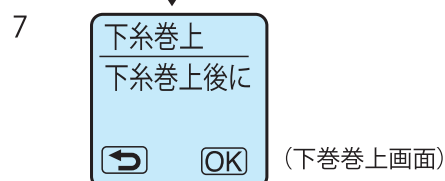
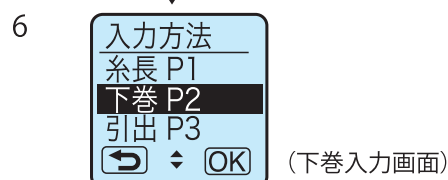
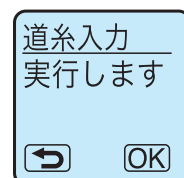
※既に下巻が完了している場合は、そのまま
OK (MEMO スイッチ) を押します。

8. 上糸をしっかり結びます。

9. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら残り100mになるまで道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

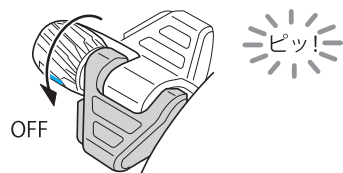


機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力

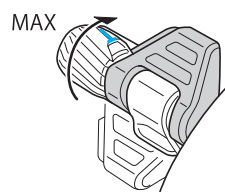


- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

10. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

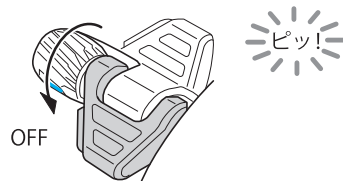


11. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら50m道糸を巻いてください。

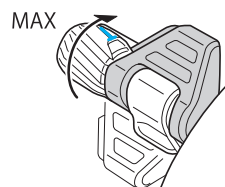


※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

12. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

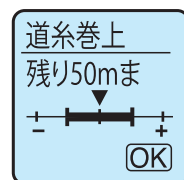


13. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら最後まで道糸を巻いてください。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

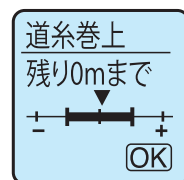
11



(道糸巻上画面)



13



(道糸巻上画面)

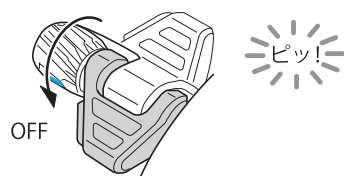


機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P2 下巻入力



- 糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- この入力方法はPE1号未満の細糸は入力することができません。
- PE1～2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込むおそれがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお薦めします。

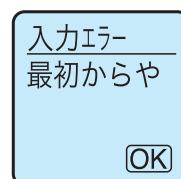
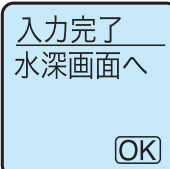
- 14.巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



- 15.入力完了画面が表示されたら **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

※入力エラー画面が表示された場合は、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。

15



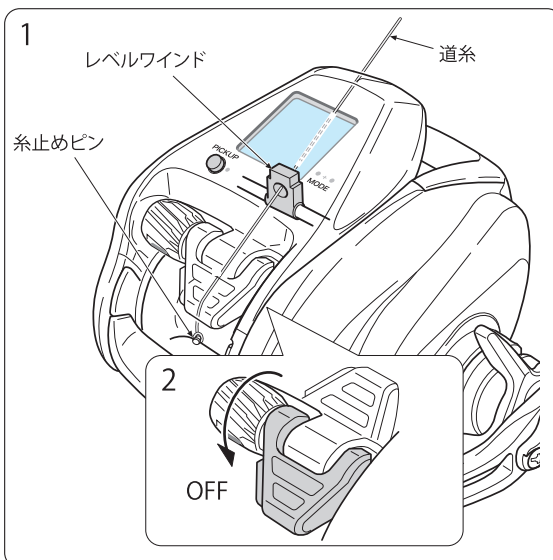
機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

道糸を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。ただし長さのわかる道糸が100m以上必要です。

- 1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
※ドラグを締め付けてください。

- 2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



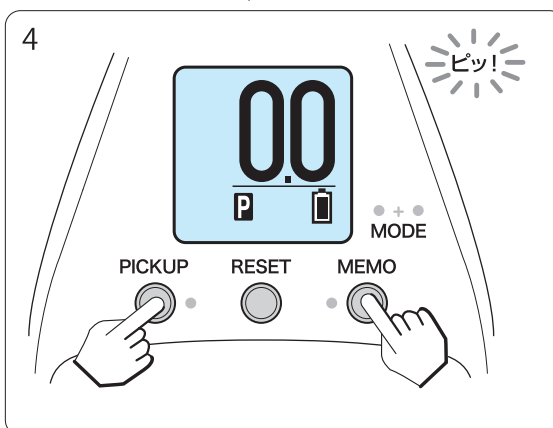
- 3.リールを通电させてください。

※接続方法についてはP.10「電源のつなぎ方」を参照ください。



(電源投入画面)

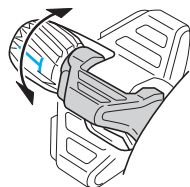
- 4.表示が **0.0** のときに **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

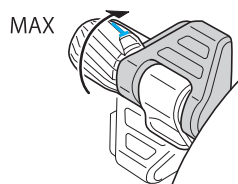


※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

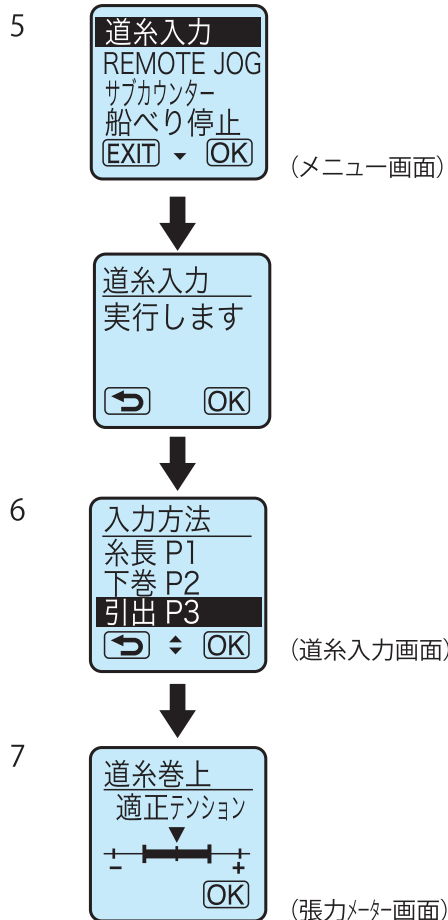
6. 「引出 P3」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

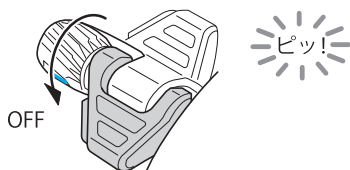
※既に道糸巻上が完了している場合は、そのままを **OK** (MEMO スイッチ) 押します。



注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。
- ・この入力方法はPE1号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE1～2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込むおそれがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお薦めします。

8. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



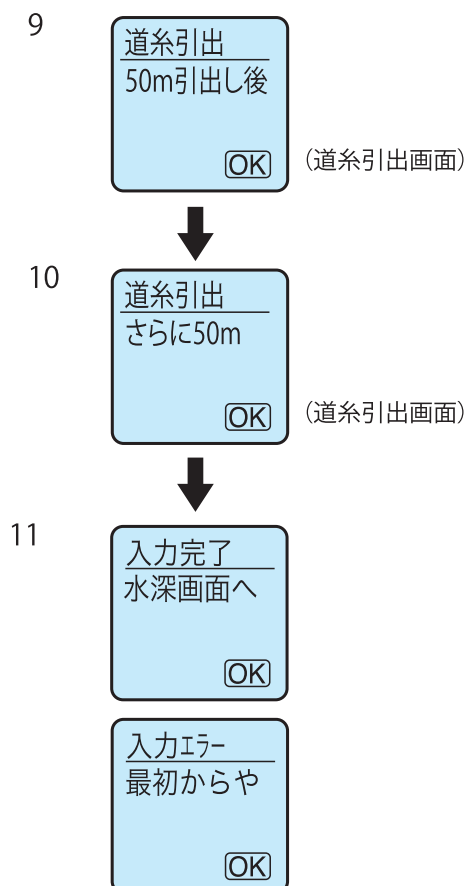
機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

9.糸色に注意しながら50m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

10.糸色に注意しながら50m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

11.入力完了画面が表示されたら
OK (MEMO スイッチ)を押し、水深画面
へ戻り、引出した糸を巻き取って完了で
す。

※入力エラー画面が表示された場合は、
OK (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最
初からやり直してください。



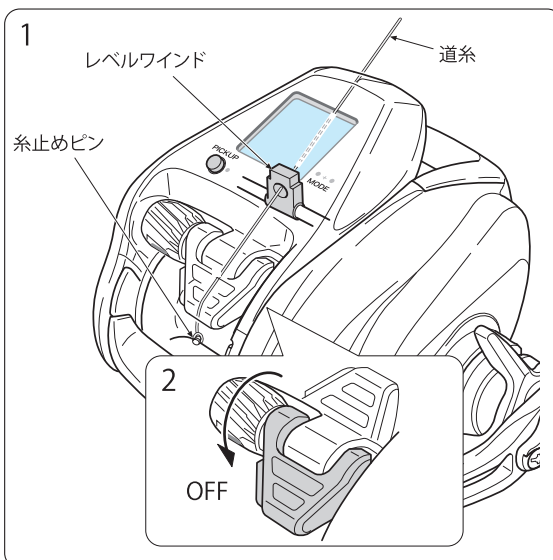
機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P4 10m引出入力

道糸を巻き終わった状態から10m引き出して入力する方法です。
※P1/P2/P3入力でエラー後など、糸巻が完了した状態からでは入力できません。

1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
※ドラグを締め付けてください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



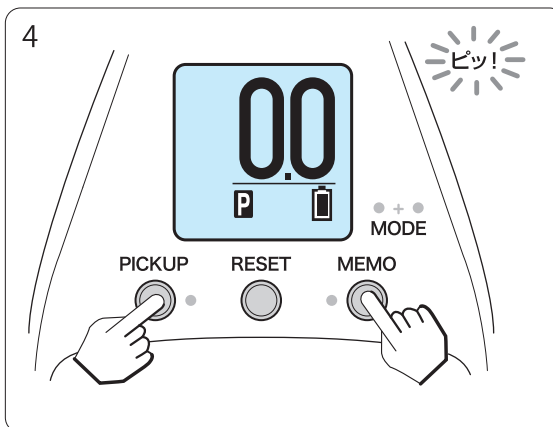
3.リールを通电させてください。

※接続方法についてはP.10「電源のつなぎ方」を参照ください。



(電源投入画面)

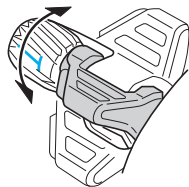
4.表示が **0.0** のときに
MEMO スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P4 10m引出入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

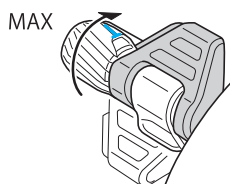


※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

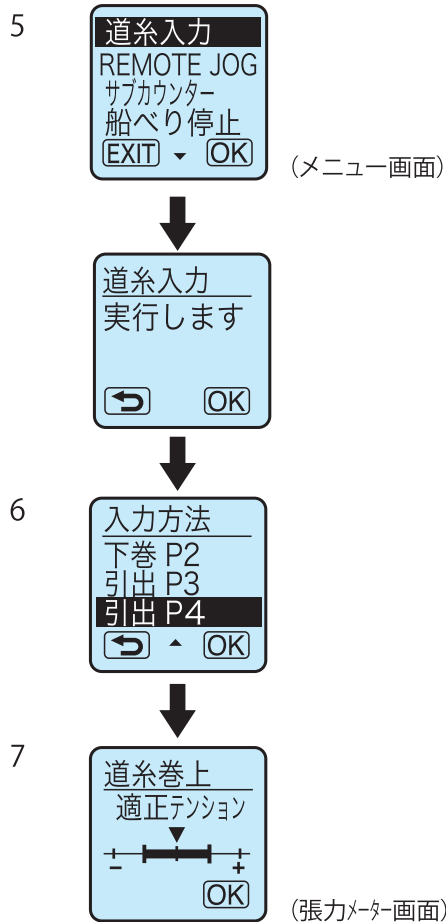
※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

6. 「引出 P4」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



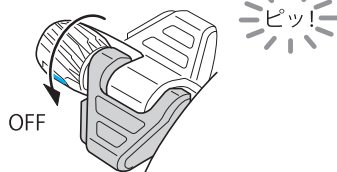
※巻上中、▼ ができるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。



注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。ジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。
- ・この入力方法はPE2号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE2号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込むおそれがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

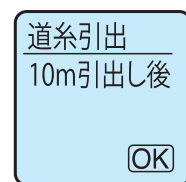
8. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P4 10m引出入力

9.糸色に注意しながら10m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

9

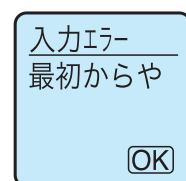
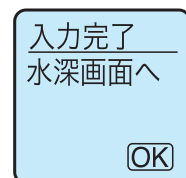


(道糸引出画面)



10.入力完了画面が表示されたら
OK (MEMO スイッチ)を押し、水深画面
へ戻り、引出した糸を巻き取って完了で
す。

10



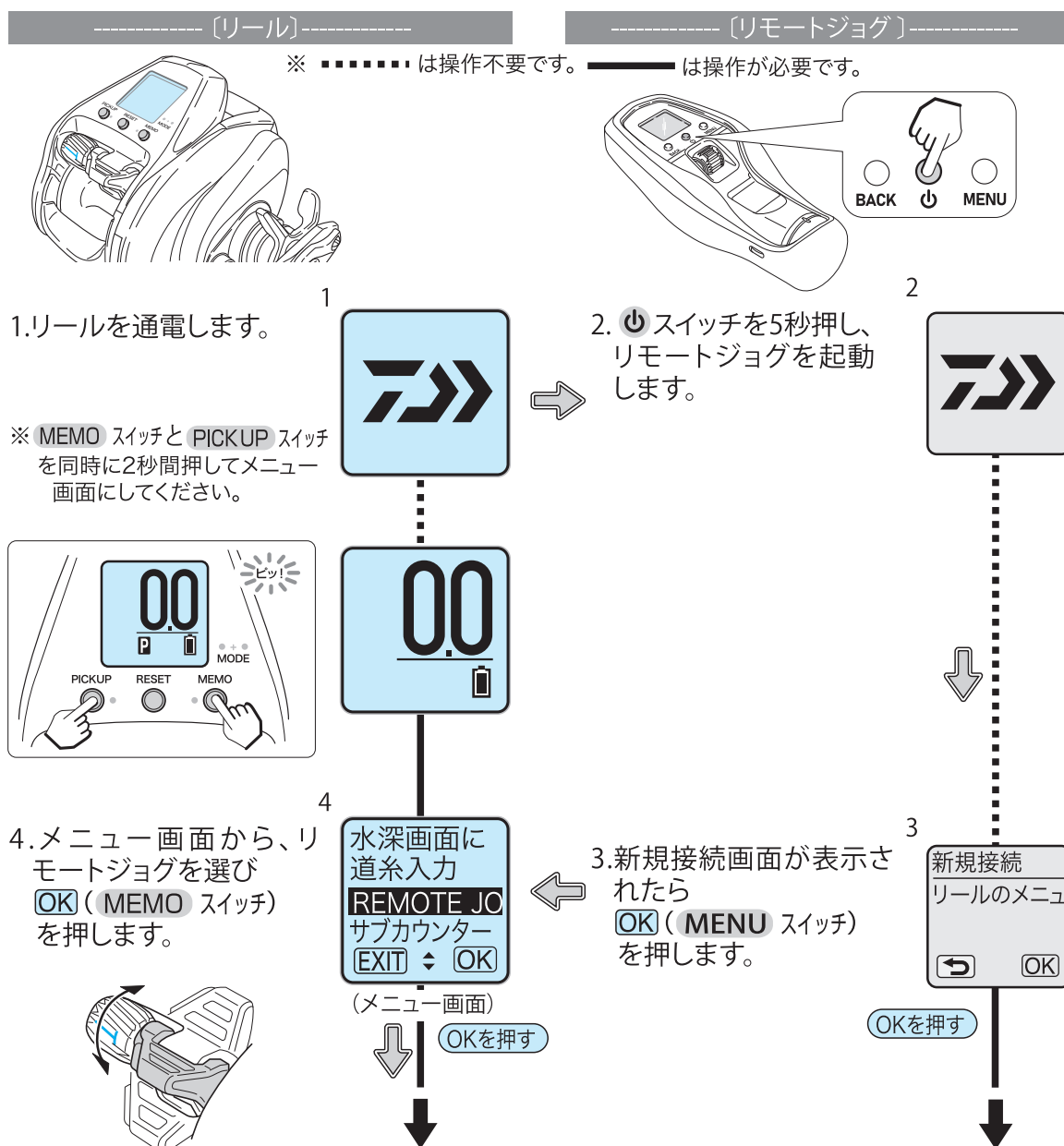
※入力エラー画面が表示された場合は、
OK (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最
初からやり直してください。

機能設定の基本操作「3.リモートジョグ 接続」【別売】

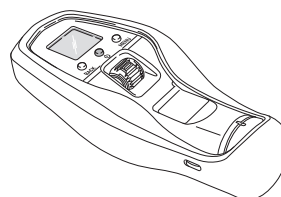
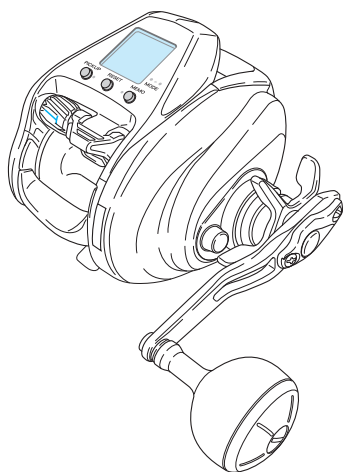
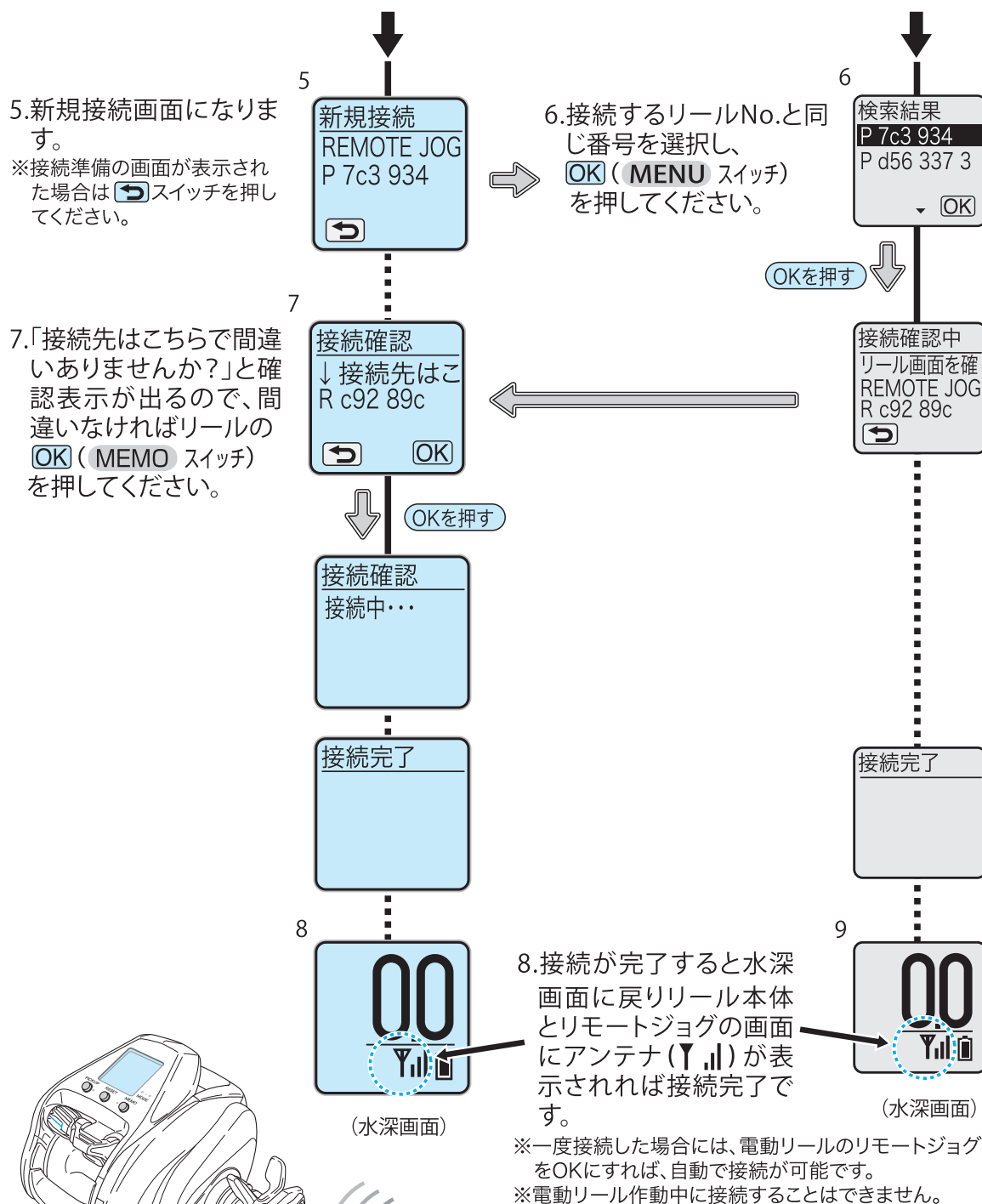
電動リールとリモートジョグを接続することで、リールから離れた場所で水深が分かり、リールを操作することができます。※JPNモデルのみ対応

●リモートジョグ 接続方法

リールもリモートジョグも初めて接続するとき(リモートジョグマニュアル:接続パターン1)
※他の接続方法はリモートジョグマニュアルを参照ください。



機能設定の基本操作 「3.リモートジョグ 接続」【別売】



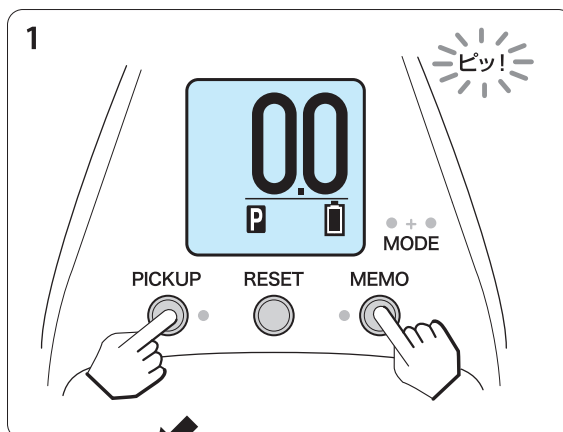
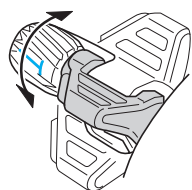
機能設定の基本操作「4.サブカウンター」

水深カウンターの下にもう一つのカウンターを表示することができます。
表示内容は「底からカウンター」、「巻上速度」、「巻上残り時間」の3つから選択できます。
※初期設定では、サブカウンターは「表示なし」となっています。

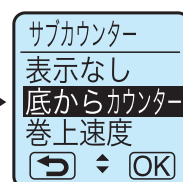
●底からカウンター

上からも底からも測れる2つのカウンターが棚を両面攻撃。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
2. ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「底からカウンター」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



(メニュー画面)



(サブカウンター)

3. 水深カウンターの下に底からカウンターが表示されます。



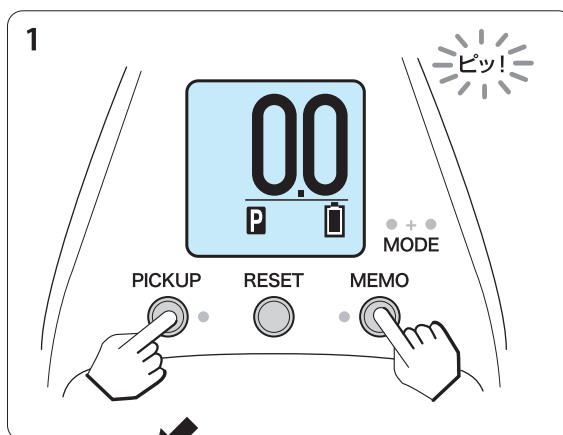
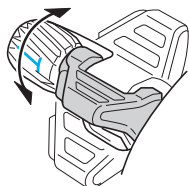
4. 仕掛けを投入して、底や狙いの棚など任意の位置で **MEMO** スイッチを押すことで、底からカウンターが **0.0** になり、その地点を基準にカウンターが動きます。

機能設定の基本操作「4.サブカウンター」

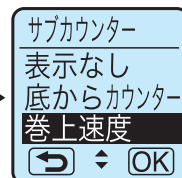
●巻上速度表示

電動で巻上げた時に巻上スピード実測値を表示します。

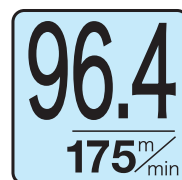
1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
2. ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を
選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、さら
にジョグパワーレバーで「巻上速度」を選択
し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



(メニュー画面)



(サブカウンター)



(表示例)

3. 水深カウンターの下に、巻上速度が表示さ
れます。

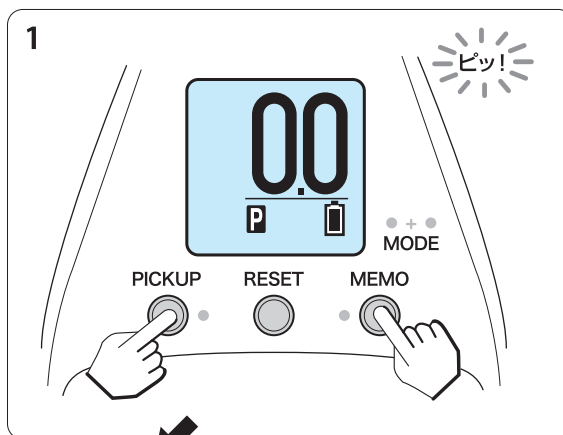
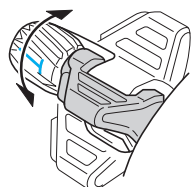
※電動巻上を行なっている時のみ表示されます。

機能設定の基本操作「4.サブカウンター」

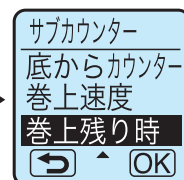
●巻上残り時間表示

電動巻上中に、船べり停止位置までの残り時間を目安として表示します。
※巻上速度の変動により、誤差が生じる場合があります。

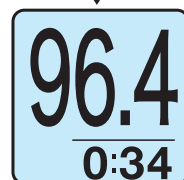
1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
2. ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「巻上残り時間」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



(メニュー画面)



(サブカウンター)



(表示例)

3. 水深カウンターの下に、巻上残り時間が表示されます。

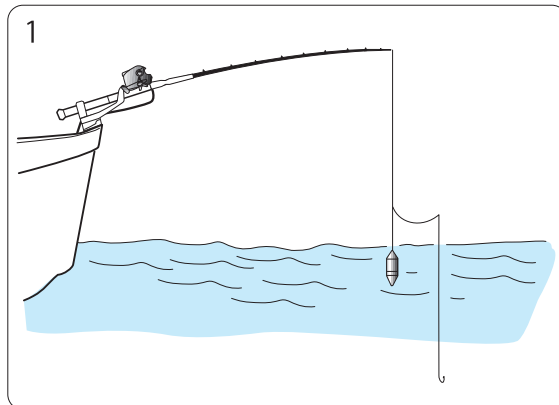
※電動巻上を行なっている時のみ表示されます。

機能設定の基本操作「5.釣りを始める前に」

●水面ゼロ設定

釣りを始める前に必ず行ってください。正確な棚取りが行えます。

- 1.コードをつなぎ、糸を出し、仕掛けをセットします。

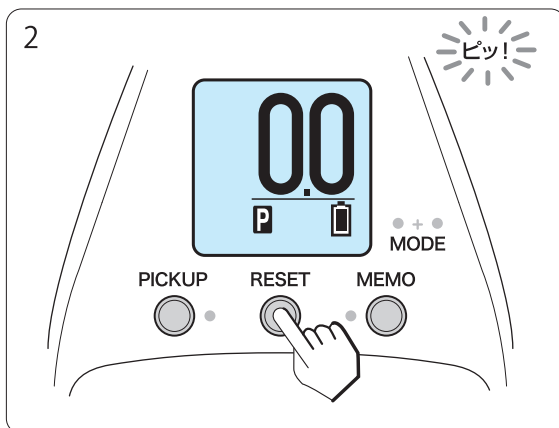


- 2.竿を出し、仕掛けが水面にある時に **RESET** スイッチを押します。

表示が **0.0** mになりセット完了です。

電動巻上の際、船べり2m手前で自動停止するようになります。

※水面ゼロ設定をしていない場合は、安全のため、船べり5mで自動停止します。



- 船べり停止位置は巻上がる張力により変動します。強い張力で巻上げをした場合は船べり停止位置がずれますが、ゼロセットは行なわないでください。
- 船のゆれやオモリの号数によっては、停止位置が多少オーバーランすることがあります。その時は、設定値を増加させてご使用ください。
- 巻上げ時、負荷の変動が大きい時は、停止位置のズレにより仕掛けを巻き込み、ロッドを破損するおそれがあります。このような釣りの際は、船べり停止位置を余裕を持って設定してください。

●道糸が切れてしまったら

- 道糸が切れてしまった場合、糸切れ修正を行なってください。
切れたライン分のラインデータを修正します。通電状態のまま竿先まで巻き上げ、**RESET** スイッチを2秒以上押してください。表示が **0.0** になれば完了です。
- ※上記の作業によってラインデータが上書き（修正）されます。
- ※糸切れした場合のデータ修正以外は、カウンター誤差の原因になりますので、**RESET** スイッチの長押しはしないでください。

機能設定の基本操作「6.船べり停止」

●えらべる船べり自動停止

船べり停止位置が思いのまま、さらに手返しラクラク。

- えらべる船べり自動停止は、**RESET** スイッチ を押した位置より1m～5mの範囲内で船べり停止位置を任意を選んでセットすることができます。(10cm単位)
特にコマセ釣りの場合は、船べり停止し、ロッドを立てれば仕掛けが手元にくるよう、えらべる船べり自動停止位置をセットすれば手返しに大変便利です。
ただし、安全のため船べり停止位置は1m未満には設定できないようになっています。
- 船べり停止位置付近では、安全のためジョグパワーレバーでの操作がきかない場合があります。

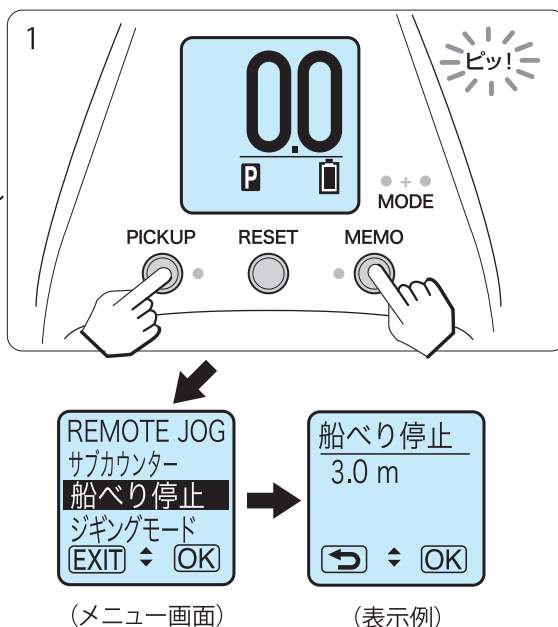
えらべる船べり自動停止は、メニュー画面から設定する方法と水深画面で設定する方法の2種類のやり方があります。

●メニュー画面から設定する方法

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチ
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーで「船べり停止」を選択し
OK (**MEMO** スイッチ) を押します。
- 3.ジョグパワーレバーで任意の船べり停止位置
を選択し**OK** (**MEMO** スイッチ) を押して
水深画面へ戻ります。

※水面ゼロ設定をしていない場合は、えらべる船べり自動停止は設定できません。先に水深ゼロ設定を行なってください。

- 4.仕掛けを投入して、電動巻上を行なうと、設定した位置で自動停止するようになります。



●船べり停止設定について

- 水深の深さや張力により、糸は伸び、水深や停止位置がずれることがあります。特に深海釣りの場合には掛かった魚の数や潮の抵抗等により、仕掛けの投入ごとに張力が変動し、ズレはより大きくなる傾向にあります。船べり停止水深は可能な限り大きい値に設定いただき、巻き込みに十分注意してください。また、停止地位がずれた後にリセットを押してしまいますと次の回収で巻き込んでしまうことがありますのでリセットはしないで次の投入をしてください。

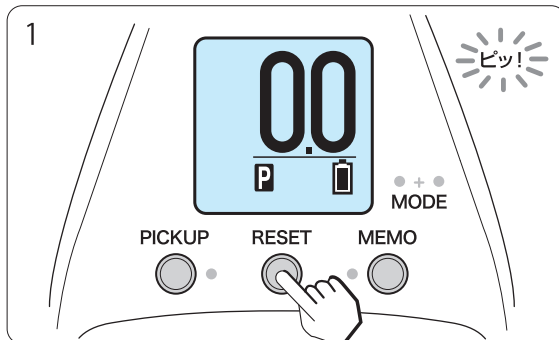
機能設定の基本操作「6.船べり停止」

●水深画面から設定する方法

1. リールを通电し、水面に仕掛けがある時に **RESET** スイッチを押します。

(水面ゼロ設定)

表示が **0.0** mになります。

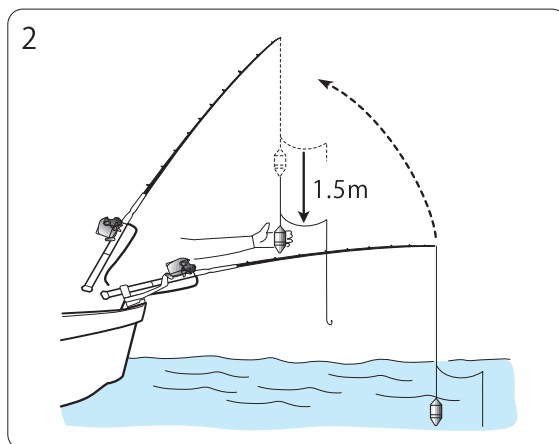


2. ロッドを立てて、仕掛けの取りやすい位置や、取り込みのしやすい位置まで糸を出します。

図の場合は1.5m

便利

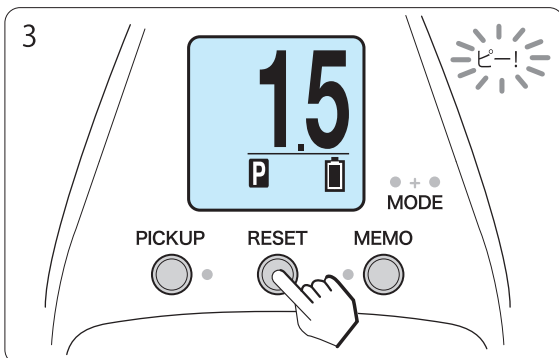
コマセ釣りの場合
・竿を立てたときビシがちょうど手元にくるように設定すれば、手返しに大変便利です。



3. その位置で **MEMO** スイッチを約2秒間押し続けます。

※船べり自動停止の初期設定は2.0mです。

(**RESET** スイッチを押さない場合は、5.0mで止まります。)



4. 仕掛けを回収する時は、設定値で自動で電動巻上げを停止しますので、ロッドを立てれば仕掛けが手元に来ます。

機能設定の基本操作「7.糸送り機能」

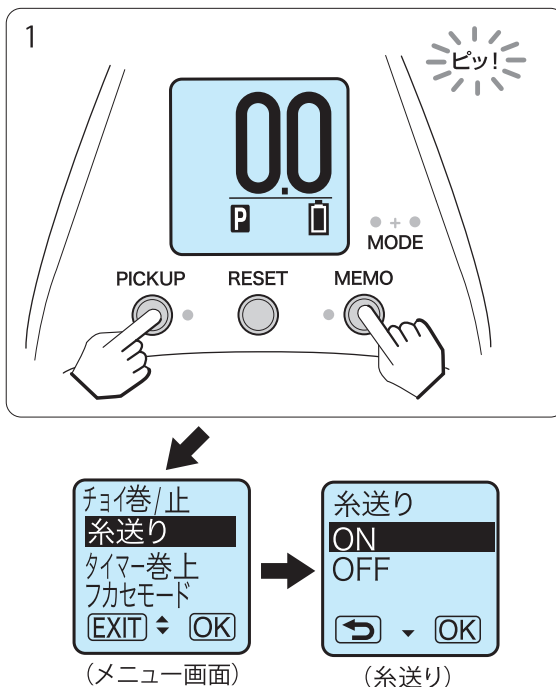
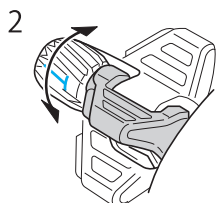
●糸送り機能

モーターギアが逆転し、スプールが糸の出る方向に回って糸の出を補助します。

●糸送り

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「糸送り」を選択し
OK (**MEMO** スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「ON」を選択し
OK (**MEMO** スイッチ) を押してセット完了です。



- クラッチをOFFにして仕掛けを投入すると、糸送り機能が船べり停止位置プラス2.5mから作動します。
- 仕掛け落下によるスプール回転の速度に応じて糸送り出力を自動調整します。
- 糸送り中にジョグパワーレバーが動いた場合は、糸送りを中止します。
- バックラッシュ等で一定時間以上糸送りが止まると、再スタートしません。

⚠ 注意

- 糸送り(モーター作動)中にクラッチをONにすると、糸が巻き込むときがあります。
- 船の上下動が激しい場合や風が強い場合に糸送り設定がONで仕掛け投入するとバックラッシュが発生しやすくなり、スムーズな仕掛け落下を阻害することがあります。
- フカセモードONの状態で糸送り設定をONにするとフカセモードは自動的にOFFになります。
- 糸送り設定をONにすると、モーターON/OFF連動クラッチはOFFになります。
- 糸送りONの場合、クラッチをOFFにした状態でジョグパワーレバーを倒すとモーターが駆動し、糸の出を補助する程度を調整できます。また、ジョグパワーレバー20以上の高回転状態でクラッチを急にONするとクラッチを痛めてしまうことがあります。ご自身でジョグパワーレバーを調整した場合にはジョグパワーレバーを20未満にした状態でクラッチをONにしてください。

機能設定の基本操作 「8.チョイ巻き/チョイ止め」

●チョイ巻き

PICKUP スwitch を押している間だけ電動リールに巻取りをさせることができる便利な機能です。チョイ巻きの速さは初期設定では15ですが、メニュー画面で変更することができます。

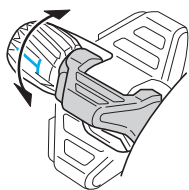
●チョイ止め

電動巻上げをしている時、**PICKUP** スwitch を押している間だけ電動巻上げを止めることができる便利な機能です。スswitch を放せばジョグパワーレバーの位置の速度で巻上げを始めます。

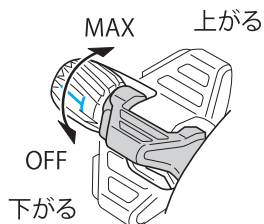
●チョイ巻き/チョイ止め設定方法

1. **MEMO** スwitch と **PICKUP** スwitch を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「チョイ巻/止」を選択し **OK** (**MEMO** スwitch) を押し、さらにジョグパワーレバーで「チョイ巻」を選択し **OK** (**MEMO** スwitch) を押します。



3. ジョグパワーレバーでスピードを設定します。



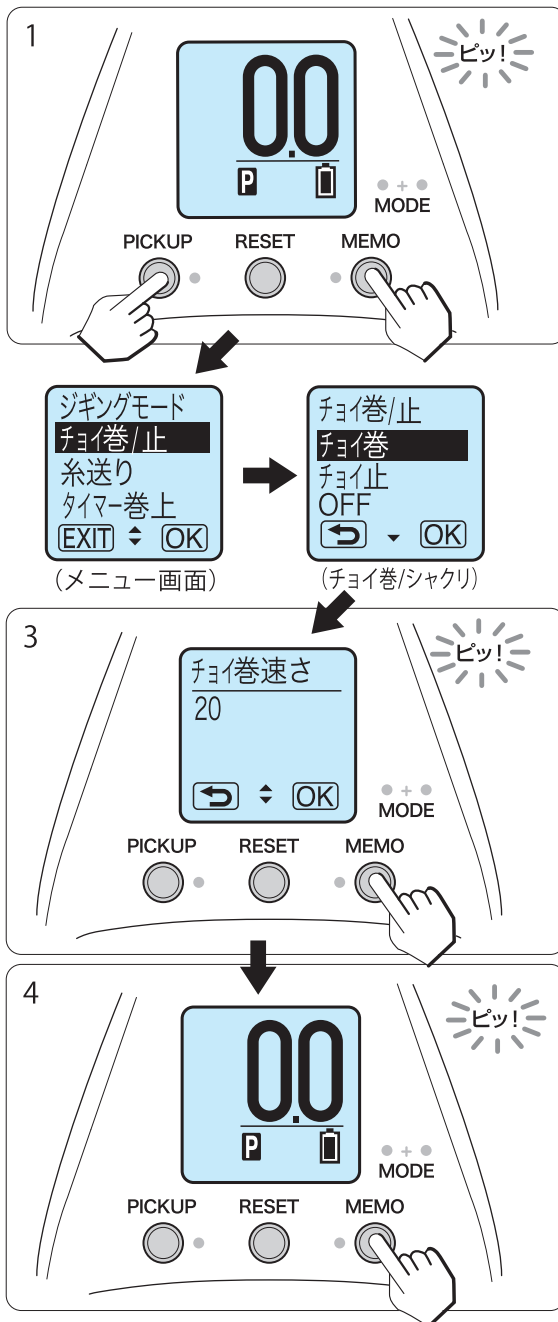
設定値は1～Hiまでです。

(図はチョイ巻で20に設定した場合)

※2で「チョイ止め」を選択した場合、3.4の設定は無く、水深画面へ戻ります。

4. **OK** (**MEMO** スwitch) を押し、水深画面に戻せばセット完了です。

※安全のため、船べり停止位置+3m以内では巻けない設定となっています。



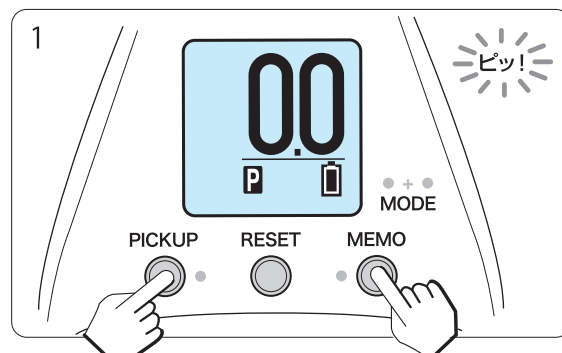
機能設定の基本操作「9.ジギングモード」

●ジギングモード

電動リールにルアーアクション動作(さそい)をさせる便利な機能です。
設定後、PICK UPスイッチを押せばジギングモードがスタートします。
アングラーのニーズに合わせて細かく設定を変更することが可能です。

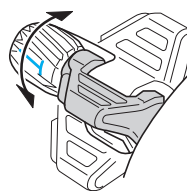
●ジギングモード設定方法

1. **MEMO** スwitchと **PICKUP** スwitch
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。



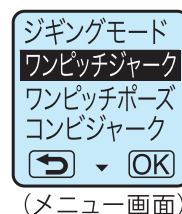
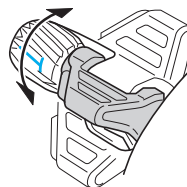
2. ジョグパワーレバーで「ジギングモード」を選択し **OK** (**MEMO** スwitch)を押します。

2



3. パワーレバーで「ワンピッチジャーク」、「ワンピッチポーズ」、「コンビジャーク」、「OFF」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し **OK** (**MEMO** スwitch)を押します。

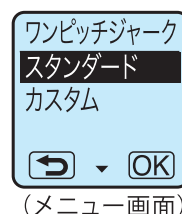
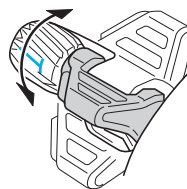
3



※初期は"OFF"設定となっています。

4. 「スタンダード」、「カスタム」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し **OK** (**MEMO** スwitch)を押します。

4



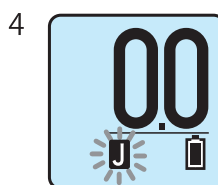
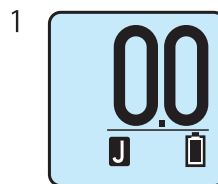
※スタンダード:各ジギングモードにおける基本動作です。

※カスタム:各種ジャークパターンを好みにあわせて設定が可能です。(後述参照)

機能設定の基本操作 「9.ジギングモード」

●ジギングモード設定後の実釣操作方法

1. カウンター上に【J】が表示されているかを確認ください。
2. クラッチをOFFにして、ジグを落下させます。
3. 9.1m以上ラインが出たら、**PICKUP** スイッチを押してください。あるいは、着底後、**PICKUP** スイッチを押してください。
4. カウンター上の【J】表示が点滅します。
5. クラッチをONにすると、ジギングモードがスタートします。
6. ジャーク範囲まで巻き取ると、ジギングモードは停止しますので、クラッチをOFFにして再度ジグを落下させてください。
7. ジギングモードを繰り返すには再度**PICKUP** スイッチを押してください。



●ジギングモードに関する注意点

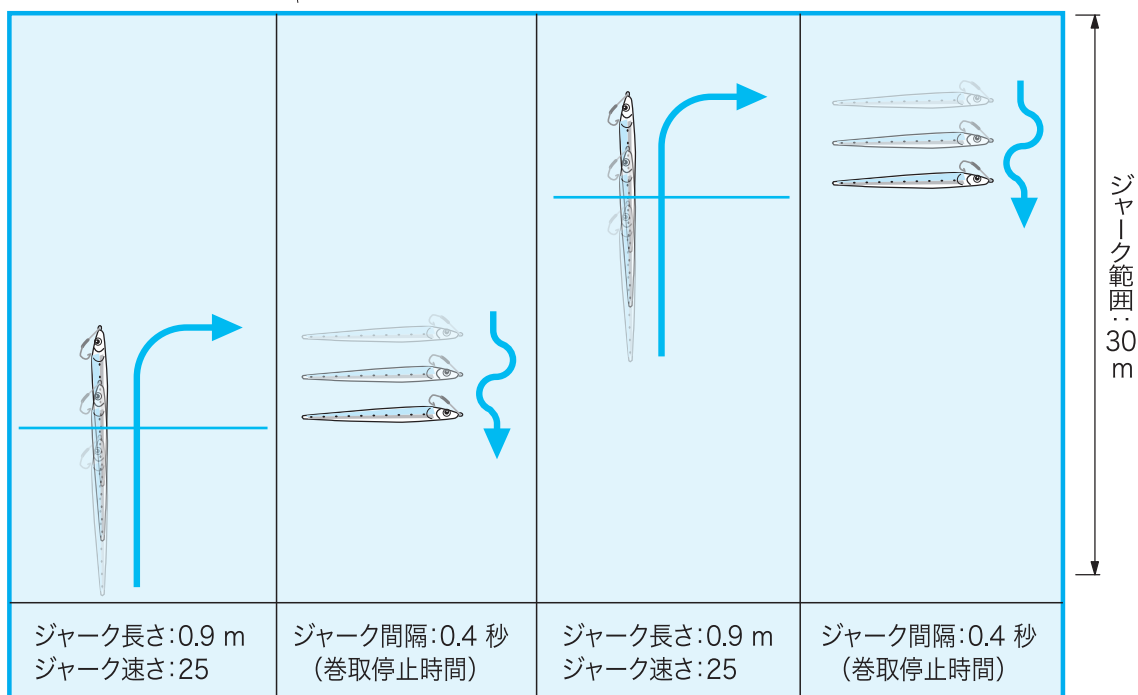
1. ジギングモードは船べり停止位置まで機能します。
2. ジャーク範囲の途中でクラッチをOFFにすると、巻き取りは停止されますが、【J】表示は点滅し続け、再度クラッチをONにするとジギングモードが再開します。但し、カウンター値9.0mより巻き取りを行うと、クラッチをOFFにしても【J】表示は点滅せず、このモードは一旦停止します。
3. カウンター値9.0m以下から、船べり停止までは【20】以下の速度になります。
4. ジギングモードとチョイ巻/止設定は、同時に設定ができません。最後に設定したほうが優先になります。【J(ジギングモード) / P(チョイ巻) / 無し(チョイ止)】のいずれかがカウンターに表示されます。

機能設定の基本操作「9.ジギングモード」

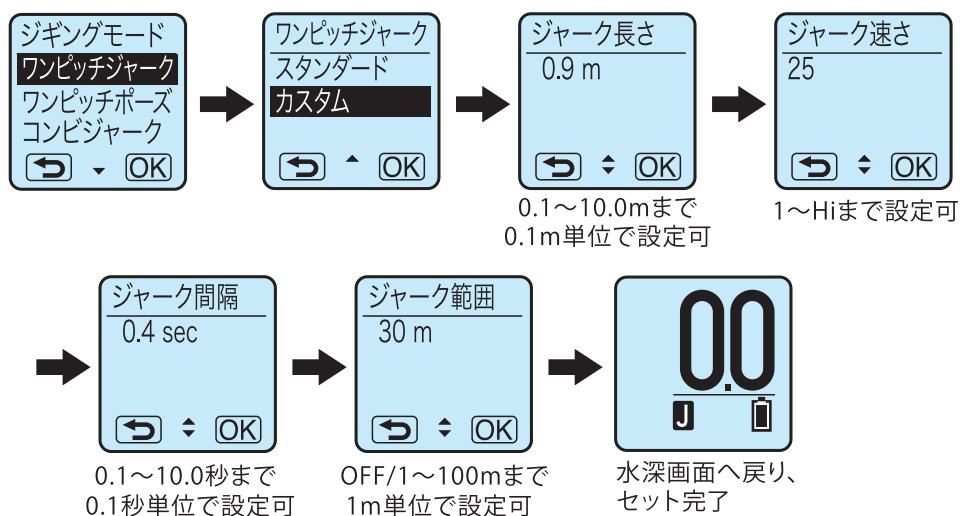
●各ジャークモード カスタム設定方法

■ワンピッチジャーク

ジャーク長さ、ジャーク速さ、ジャーク間隔（巻取停止時間）、ジャーク範囲の設定を行うことができます。
※下記イメージ図はスタンダード設定（初期設定）です。



設定画面は下記の通りとなります。



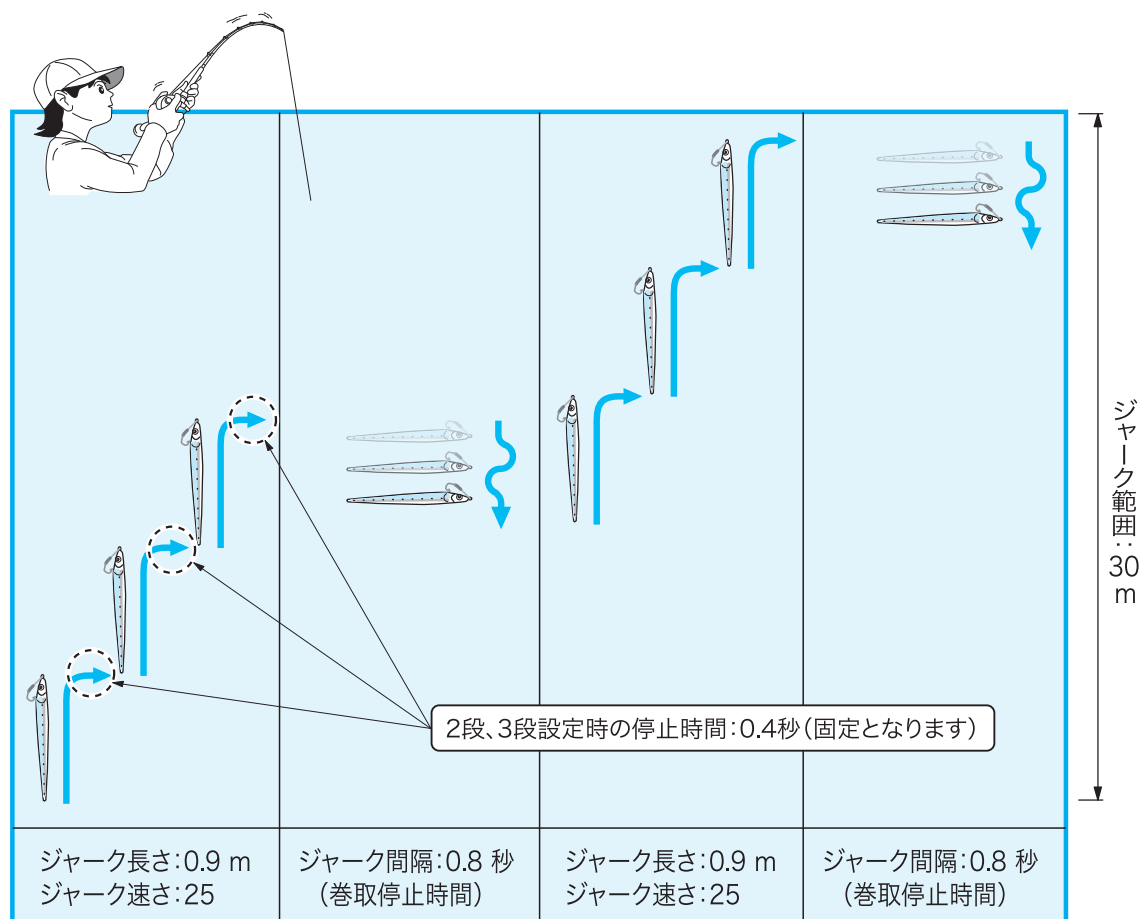
機能設定の基本操作 「9.ジギングモード」

■ワンピッチポーズ

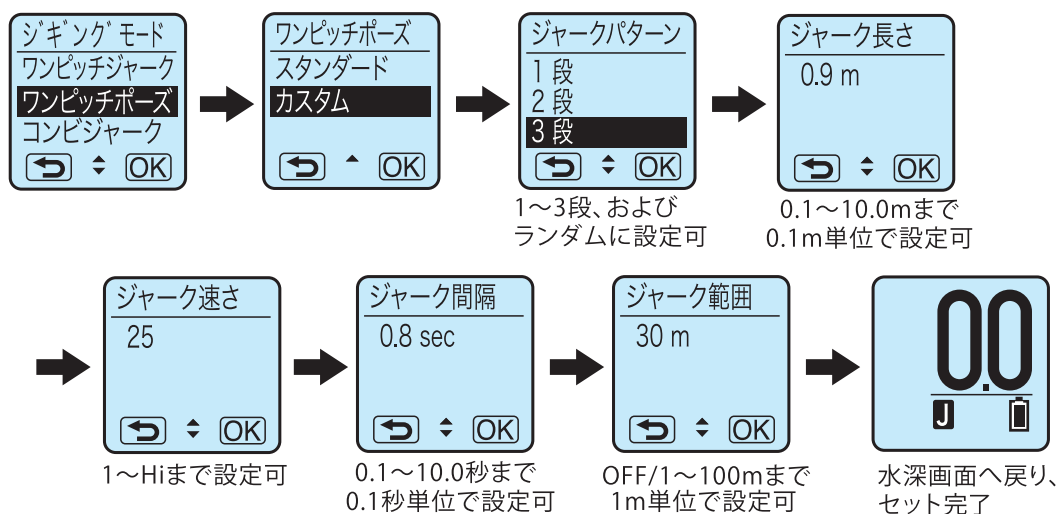
ジャークパターン（段数設定）、ジャーク長さ、ジャーク速さ、ジャーク間隔（巻取停止時間）、ジャーク範囲の設定を行うことができます。

※下記イメージ図はスタンダード設定（初期設定）です。

※従来のシャクリ設定はこのモードと同じです。



設定画面は下記の通りとなります。



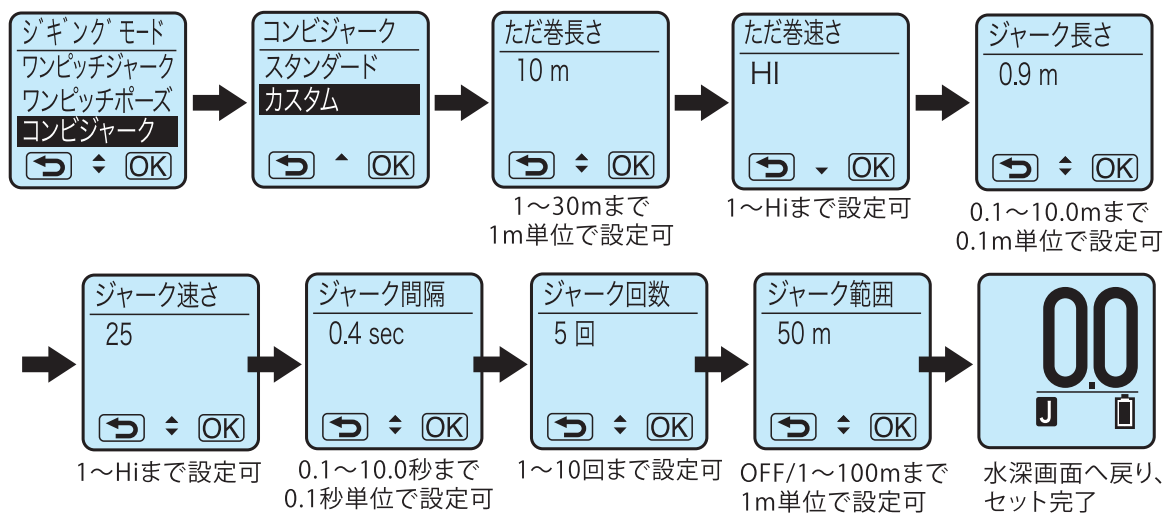
機能設定の基本操作「9.ジギングモード」

■コンビジャーク

ただ巻き長さ、ただ巻き速さ、ジャーク長さ、ジャーク速さ、ジャーク間隔（巻取停止時間）、ジャーク回数、ジャーク範囲の設定を行うことができます。
※下記イメージ図はスタンダード設定（初期設定）です。

ただ巻き長さ: 10 m ただ巻き速さ: HI	ジャーク長さ: 0.9 m ジャーク速さ: 25 ジャーク間隔: 0.4 秒 ジャーク回数: 5 回	ただ巻き長さ: 10 m ただ巻き速さ: HI	ジャーク長さ: 0.9 m ジャーク速さ: 25 ジャーク間隔: 0.4 秒 ジャーク回数: 5 回
----------------------------------	---	----------------------------------	---

設定画面は下記の通りとなります。



機能設定の基本操作 「10.モーターON/OFF連動クラッチ」

電動巻上げ（モーター回転）中にクラッチをOFFにすると、モーター回転が一旦停止し、再度クラッチをONにすると電動巻上げ（モーター回転）を自動で再開します。※初期設定されています。

●モーターON/OFF連動クラッチ操作方法

1)クラッチOFF時(モーター停止)

水深9.1m以上でジョグパワーレバーを動かすと、巻上速度（1～HI）を設定できます。

※カウンター画面左下数値が点滅表示します。

クラッチONにすると、設定した巻上速度（モーター回転）で電動巻上を開始します。

クラッチON（モーター回転）/OFF（モーター停止）の操作が繰り返し行えます。

2)クラッチON時(モーター回転)

水深9.1m以上でジョグパワーレバーを動かすと、巻上速度（1～HI）を設定できます。

※カウンター画面左下に数値が表示されます。

※設定した巻上速度（モーター回転）で電動巻上を行います。

クラッチOFFにすると、電動巻上が停止します。（モーター停止）

クラッチON（モーター回転）/OFF（モーター停止）の操作が繰り返し行えます。



警告 <ご使用上における警告>

- ・クラッチON時に指を挟んだり、巻き込むおそれがあります。直ちにレバーをOFFにして操作を停止してください。



注意 <ご使用上における注意点>

- ・穂先に糸が絡んだ状態でクラッチをONにしないでください。穂先を破損するおそれがあります。
- ・糸がバックラッシュした状態で、クラッチをONにしないでください。リールを破損するおそれがあります。



注意 <操作における注意点>

- ・繰り返し行う際、水深9.0m未満まで巻き取ると、巻上速度の設定がリセットされます。再度設定を行なってください。
- ・ジギングモード及びチョイ巻き操作時は、設定した巻上速度が無効となります。
- ・糸送りONの際は、「モーターON/OFF 連動クラッチ」機能は無効になります。

機能設定の基本操作「11.電子ドラッグ音」

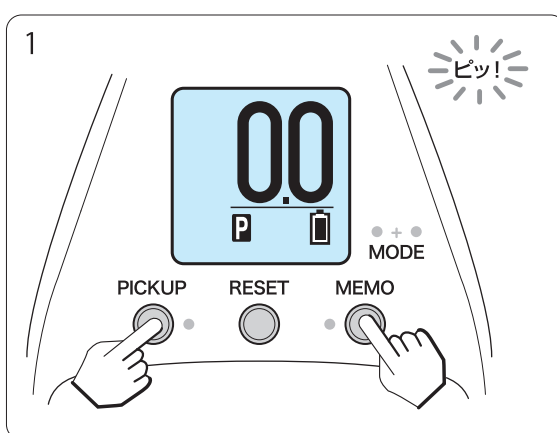
ドラッグが引き出された際、電子アラーム音でお知らせする機能です。
3種類のアラーム音とOFFから選択できます。
※初期は"パターン1(高音)"となっています。

●電子ドラッグ音選択項目

パターン1:高音
パターン2:中音
パターン3:低音
OFF:アラーム音無し

●電子ドラッグ音設定方法

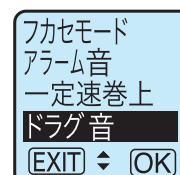
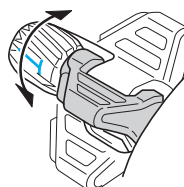
1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。



(水深画面)

2. ジョグパワーレバーで「ドラッグ音」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

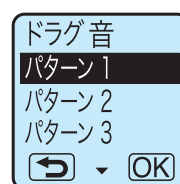
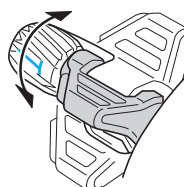
2



3. 「ドラッグ音」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

※初期は"パターン1"設定となっています。

3



機能設定の基本操作「12.デプスアラーム」

水深10m毎のカウントをアラーム音でお知らせする機能です。フォール (FL) と巻き上げ (UP) 双方の各種アラーム設定が可能です。

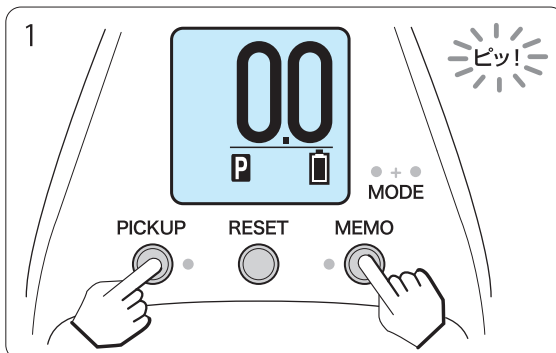
●アラーム音選択項目

アラーム音は、アラーム音OFFを含めて4つの設定から選択できます。

- ①FL/UP0: アラーム音OFF
 - ②FL/UP1: 水深10mごとにアラーム音1回の繰り返し
 - ③FL/UP3: 水深10mごとにアラーム音1回～3回の繰り返し
 - ④FL/UP5: 水深10mごとにアラーム音1回～5回の繰り返し
- ①～④いずれも、フォール設定、巻き上げ設定それぞれでON/OFF設定が可能です。

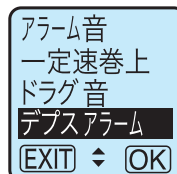
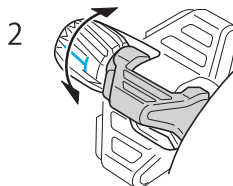
●デプスアラーム設定方法

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。



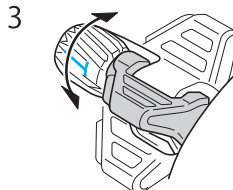
(水深画面)

2. ジョグパワーレバーで「デプスアラーム」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



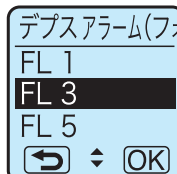
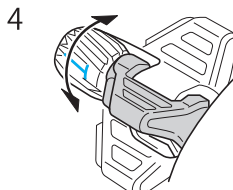
(メニュー画面)

3. ジョグパワーレバーで「デプスアラーム」 「ON」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



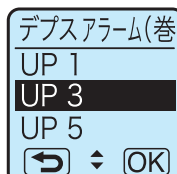
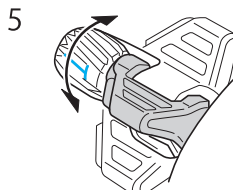
(メニュー画面)

4. 「デプスアラーム (フォール)」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



(メニュー画面)

5. 「デプスアラーム (巻き上げ)」の選択項目のうち、設定したい項目を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



(メニュー画面)

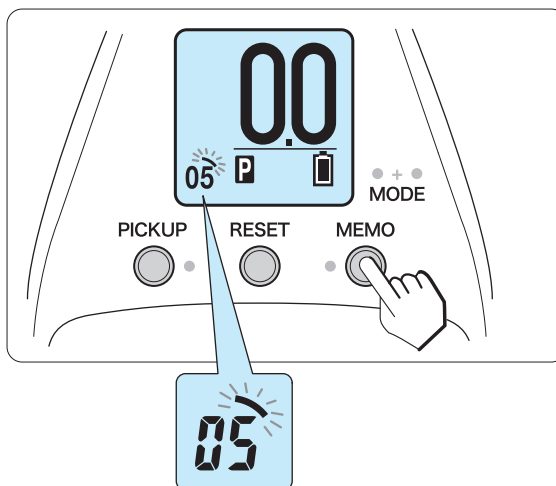
※フカセモードがONの時には、デプスアラームを設定してもアラーム音は鳴りません。

機能設定の基本操作「13.タイマー」

●タイマー

毎回、仕掛け投入経過時間をズバリ表示。手返しペースを作るのにもとても便利。

- 仕掛け投入開始からの経過時間を表示します。仕掛け回収のタイミングを測る目安になります。
- タイマーは **MEMO** スイッチが押されていないときは、水面カウンター7.0mよりオートスタートします。



※1分以内は秒単位、1分以上は分単位で表示されます。

※タイマー機能は解除できません。



- 途中で **MEMO** スイッチ を押した場合は、タイマー表示が **0.0** からスタートします。

機能設定の基本操作「14.タイマー巻上」

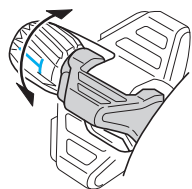
●タイマー巻上

初心者もプロの手返し!待ち時間をセットすればリールが自動で巻上げてくれるから、より効率の良い釣りが簡単にできます。

- 1回の投入の待ち時間を5分とリールに設定すれば、タイマーがスタートした時点より5分たてば、自動的にリールが手返しのため高速で仕掛けを巻き上げます。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「タイマー巻上」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



3. ジョグパワーレバー操作で手返しの待ち時間 (分) を選択します。

レバーを上げると数値が上がり、手前に引くと数値が下がります。

(図は待ち時間を5分にセットした場合です。)

4. **OK** (**MEMO** スイッチ) を押して、水深画面に戻ったらセット完了です。

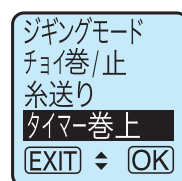
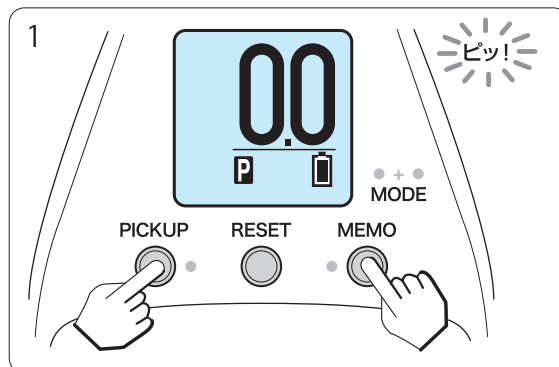
5. 仕掛け投入後、クラッチをONにした状態で、設定した時間がくると、自動的にMAXスピードで仕掛けを巻き上げます。

タイマー巻上げを開始すると、画面に **T** (タイマー) が点灯します。

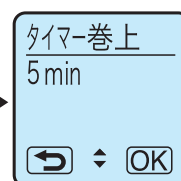
- 巻き上げ前にアラームが鳴ってお知らせします。
- クラッチがOFFの場合は、自動巻上は行ないません。
- タイマーは仕掛け投入7.0mより自動スタートしますが、**MEMO** スイッチ を押すことで、一旦リセットし、再スタートさせることができます。

※巻上速度の調整はできません。

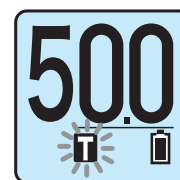
- フカセモードがONの時にタイマー巻上をONにするとフカセモードは自動でOFFになります。



(メニュー画面)



(表示例)



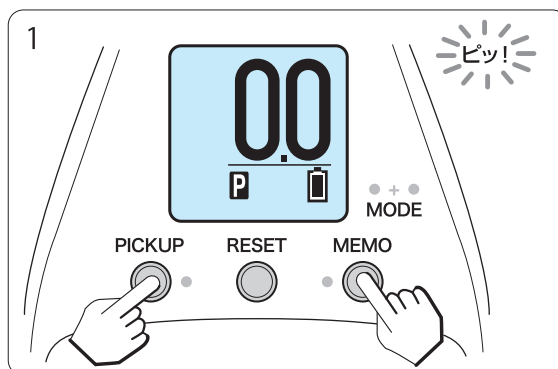
機能設定の基本操作「15.一定速巻上モード」

●一定速巻上モード

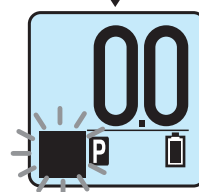
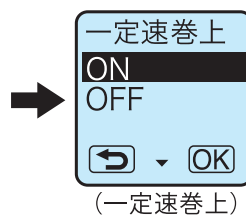
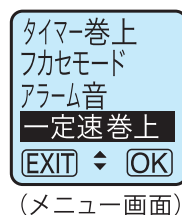
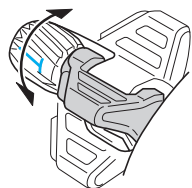
通常は、リールに負荷がかかると巻上げ速度は遅くなりますが、一定速巻上モードにするとリールにかかる負荷に関係なく、設定した速度で巻上げるとリールがモーターの回転を自動で制御します。

※海の状態や魚の動きによっては動作が不安定になることがあります。その際は本設定を解除してください。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。



2. ジョグパワーレバーで「一定速巻上」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「ON」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



画面左下に、■ が表示されます。

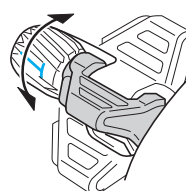
3. ジョグパワーレバーを操作し、キープしたい巻上速度になるよう調節し、ジョグパワーレバーから指を離してください。しばらくすると調節した速度をキープしようと自動制御が始まります。

※作動範囲はジョグパワーレバーの数値1～30です。

※ジョグパワーレバーの数値が **HI** のときには、一定速巻上はしません。

※負荷の変動が非常に大きいときや、ドラッグを緩めに設定しているときには、ジョグパワーレバーを動かした際に急に出力が大きくなったり、小さくなったりすることがありますが、異常ではありません。

3

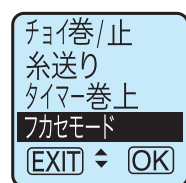
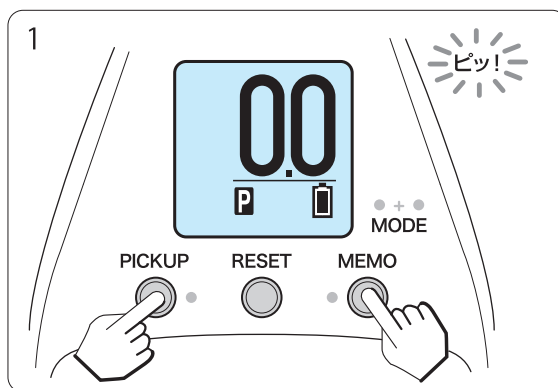
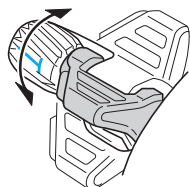


機能設定の基本操作「16.フカセモード」

●フカセモードの使い方

1. MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「フカセモード」を選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「ON」を選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

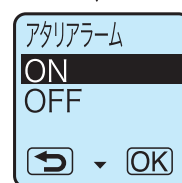


(メニュー画面)



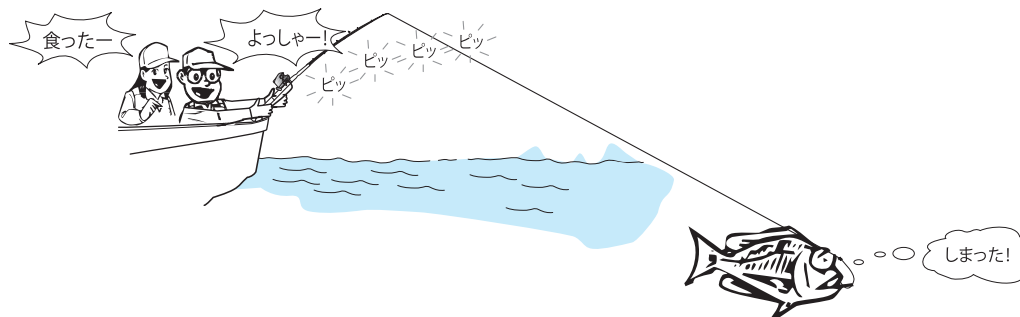
(フカセモード)

3. ジョグパワーレバーでアタリアラームの設定のON/OFFを選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



(アタリアラーム)

設定した感度より速い動きを感知すると、アタリアラームが鳴り、アタリを音で知らせてくれますので、目をはなした時でも音でアタリが分かります。

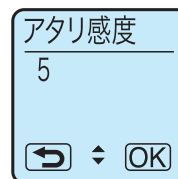
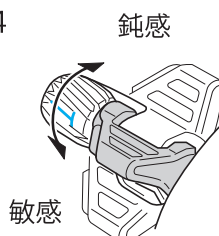


※アタリアラームをOFFにすれば、アラームは鳴りません。

機能設定の基本操作「16.フカセモード」

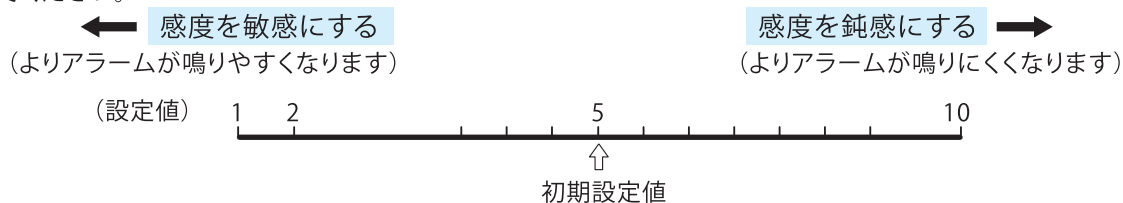
4. ジョグパワーレバーでアタリ感度を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

4



(表示例)

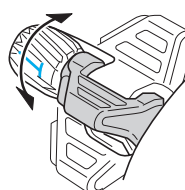
- アタリを検知する感度を設定できます。
潮の速さ、波の大きさ等の海の状況に応じて調整してください。



- 設定範囲は1～10まで可能です。

5. ジョグパワーレバーでフカセクリックの設定のON/OFFを選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押して完了します。

5



(表示例)

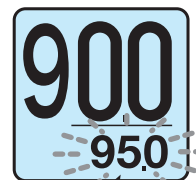
- フカセクリックをONにすると、1m糸が出るたびにアラーム音が鳴り、潮の流れ(糸の出る速度)を音で確認することができます。
 - 水深7mよりスタートします。
 - フカセモードでは、自動で上下2段の水深表示に切り換わります。
- ※フカセモードONの状態、メニュー画面サブカウンターの設定を変更しても反映されません。



●釣りタナメモリー

- アタリアラームが鳴ったタナをオートメモリーする機能です。慌ててやりとりに入っても底からカウンターにアタリアラームが鳴ったタナを点滅表示しているので、釣れタナを確認することができます。

- ※ **MEMO** スイッチを押すと、釣れタナメモリーの水深が **0.0** として換算表示されます。
- ※メモリーされたタナより浅い場合は船べり停止するまで更新されません。
- ※糸送り/タイマー巻上/デプスアラームがONの状態、フカセモードをONにすると、それぞれ自動でOFFになります。



点滅表示

〈釣れタナメモリー例〉
(95.0mでアラームが鳴り、
仮に5.0m巻いている場合)

機能設定の基本操作「17.水深指定補正」

●水深指定補正

カウンターの表示が糸色に対してズレてきたとき、糸色に合わせてカウンター表示を補正することができます。

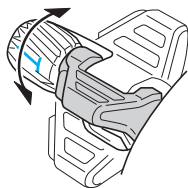
水深補正には「水深指定補正」と「10m引出補正」の2種類があります。ここでは「水深指定補正」について記述します。

便利 実釣中にカウンターを補正することができます！

(例) 糸色ではちょうど100mに対しカウンターの表示を103mから糸色100mに合わせ補正する場合。

1.補正したい水深が表示された状態で、**MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2.ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



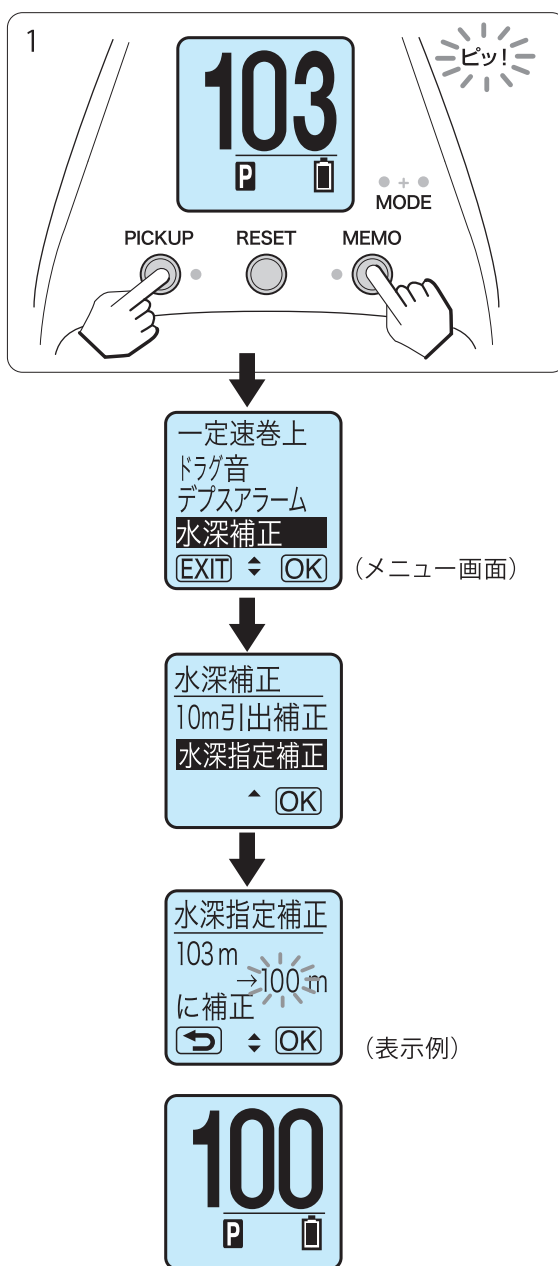
※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、再び **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

※水深が10.0m未満の時は補正は行なえません。

3.ジョグパワーレバーで「水深指定補正」を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

4.ジョグパワーレバーで希望の水深を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押して水深画面に戻ります。

5.水深が補正されました。



機能設定の基本操作 「18. 10m引出し水深補正」

●10m引出し水深補正

カウンターの表示が糸色に対してズレてきた時、糸色に合わせてカウンター表示を補正することができます。ここでは「10m引出し補正」について記述します。

便利

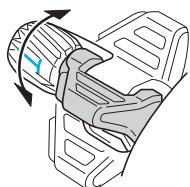
実釣中にカウンターを補正することができます！

※必ず船べりまで巻き取ってから実施してください。

- P1～P4いずれかの方法で入力した後でないと補正できません。
- 入力後に糸を継ぎ足した場合の補正はできません。
- 入力後に糸が極端に少なくなった場合の補正はできません。
- 道糸を新しくした場合には本機能でなく、道糸入力から入力してください。

1. **0.0** の状態で、**MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



※《実行しますか？》が流れ文字として表示されるので、再び **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

3. ジョグパワーレバーで「10m引出し補正」を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

4. 画面に従い、道糸を最後まで巻いて **OK** (**MEMO** スイッチ) を押してください。

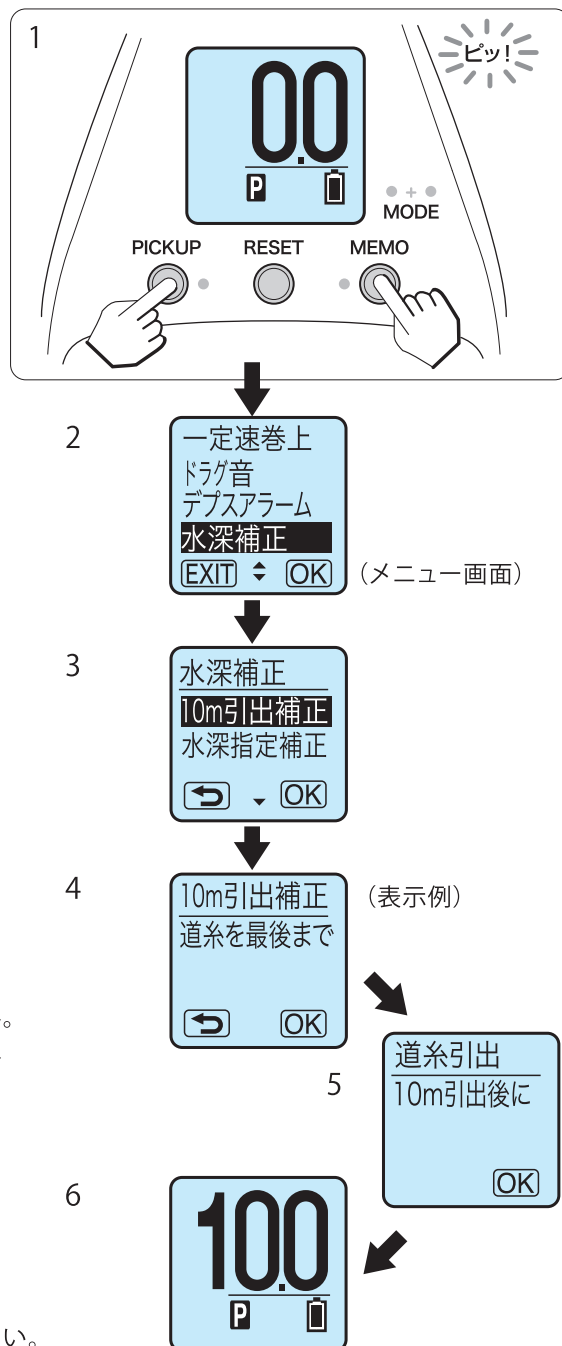
※すでに最後まで道糸が巻かれている場合には、そのままOKを押してください。

※入力後に糸を継ぎ足した場合の補正はできません。
※初期設定値か上記の方法で入力した場合のみ補正することができます。

5. 画面に従い、道糸を10m引き出した後、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押してください。

6. 水深が補正されたので、引き出した道糸を巻き取ってください。

※エラーが出た場合には最初からやり直してください。



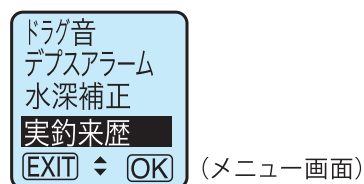
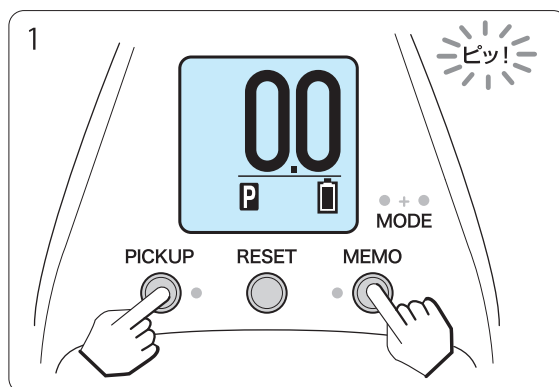
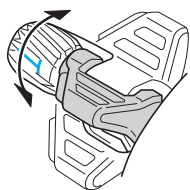
機能設定の基本操作「19.実釣来歴」

●実釣来歴

電動リールの総巻上距離と総使用時間を確認できます。
※表示値には多少誤差が生じることがあります。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「実釣来歴」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



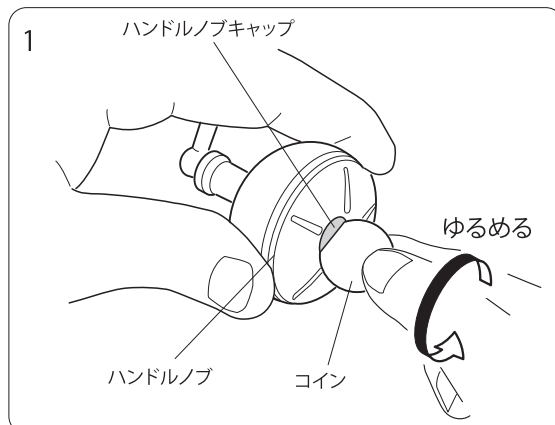
3. 総巻上距離と総使用時間が確認できます。
OK (**MEMO** スイッチ) を押すと水深画面に戻ります。



機能設定の基本操作 「20.ハンドルノブの取り外し方」

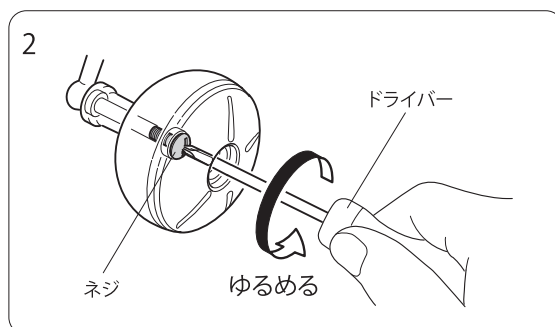
1.ハンドルノブを手で押えながらコインでハンドルノブキャップをゆるめて外します。

※ハンドルノブキャップにコインをしっかりとみ合わせて回さないと、ハンドルノブキャップが傷付いてしまいますのでご注意ください。

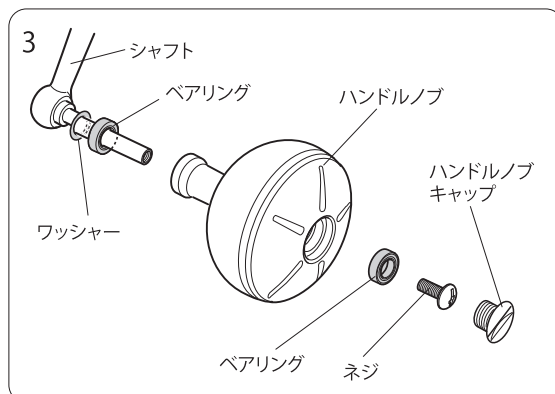


2.ドライバーでノブ内部のスクリューをゆるめて外します。

※スクリューには、ゆるみ止め防止剤が付いていて、ゆるみにくくなっています。ネジ山を傷めないようにご注意ください。



3. 部品構成は図のようになります。

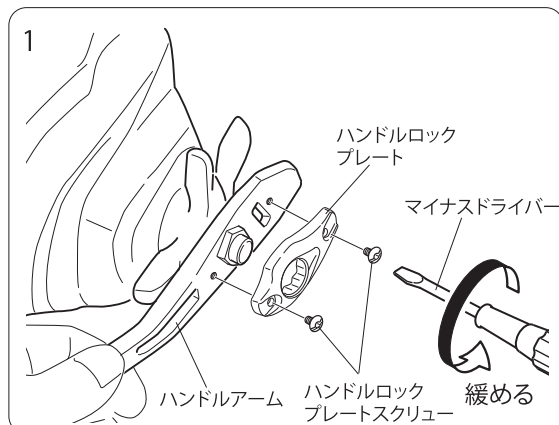


機能設定の基本操作 「21.ハンドルアーム長 交換方法」

- 1.ハンドルアームを手で押えながら、マイナスドライバーでハンドルロックプレートスクリュー(2箇所)を反時計回りに回し、緩めて外します。

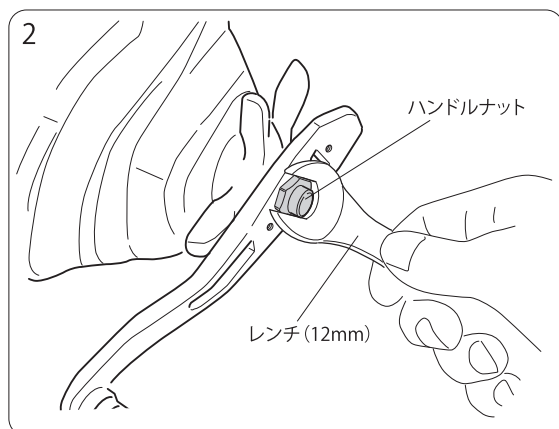
※出荷時は75mmです。

※ハンドルロックプレートスクリューにマイナスドライバーをしっかりとみ合わせて回さないと、ハンドルロックプレートスクリューが傷付いてしまいますのでご注意ください。



- 2.レンチ(12mm)でハンドルナットを緩めて外します。

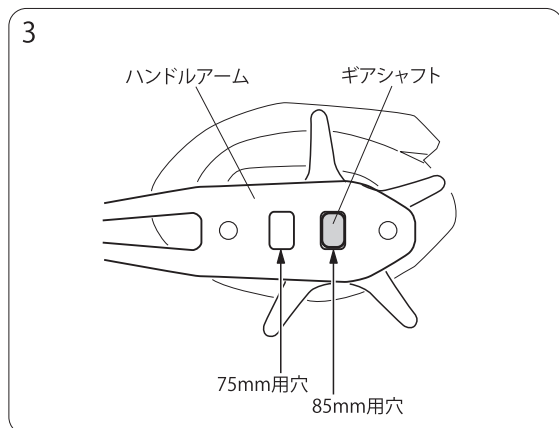
※ハンドルナットを反時計回り(左)に回すと緩みます。



- 3.ハンドルアームをギアシャフトから抜き、お好みの長さの穴へ差し直します。

※短い:75mm(出荷時)

※長い:85mm



- 4.レンチ(12mm)でハンドルナットを締めて取り付けます。

※ハンドルナットを時計回り(右)に回すと締まります。

※ハンドルがガタつかないよう、しっかりとハンドルナットを締め付けてください。

- 5.ハンドルアームを手で押えながら、マイナスドライバーでハンドルロックプレートスクリュー(2箇所)を締めて取り付けます。

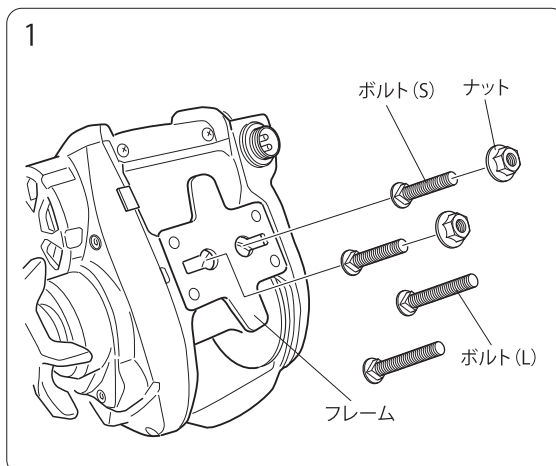
※ハンドルロックプレートスクリューにマイナスドライバーをしっかりとみ合わせて回さないと、ハンドルロックプレートスクリューが傷付いてしまいますのでご注意ください。

機能設定の基本操作 「22.ロッドクランプ装着方法」(別売)

金属バットへの装着や、負荷の大きい釣りの場合は、必ずロッドクランプをご使用ください。
(※ロッドクランプは、バットの直径が16～28mmの太さまで取付け可能です。)

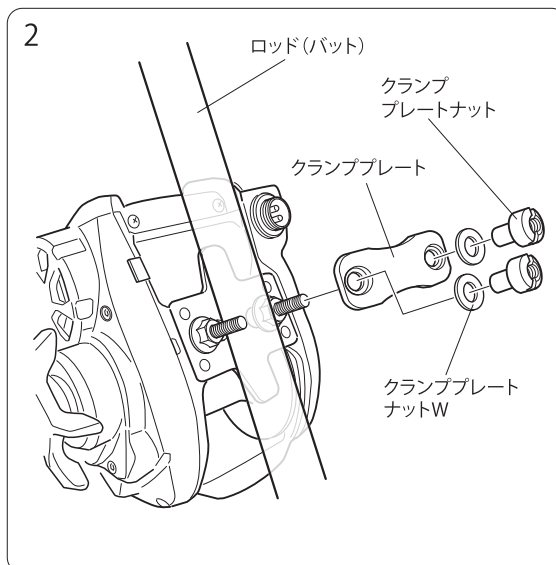
1.バット径に応じてボルト(S)もしくはボルト(L)をフレームの取り付け穴に差し込み、ナットを取り付けて固定します。

- バットの直径が16～22mmの場合にはボルト(S)を、22～28mmの場合にはボルト(L)を使用してください。



2.リールをロッドにセットし、ロッドをはさみ込むようにロッドの下からクランププレートをあて、クランププレートワッシャーを挟み、クランププレートナットを取り付けて固定します。

- 小径のバット(直径16～18mm)に対して装着する場合には、クランププレートナットWをクランププレートとクランププレートナットの間にに入れてください。



注意

- ロッドのリールシート部が樹脂の場合、ナットを強く締め込み過ぎますとリールシート部が破損するおそれがあります。
- ボルトのみ取り付けただけで釣りをされますと、ネジ部で手を切るおそれがありますのでおやめください。

機能設定の基本操作「23.その他の便利機能」

●いろいろなアラーム

船べり、棚メモリー…さまざまな情報を音でお知らせ、いろいろなアラーム。



ジョグパワーレバーアラーム

- ・ジョグパワーレバーのMAXの位置と、OFFの位置をアラーム音でお知らせします。

船べりお知らせアラーム

- ・巻上げ中、船べり停止6m手前より2m間隔でピッ、船べり停止位置でピーッと鳴り仕掛けが船べりにだんだん近付いて来るのをお知らせします。

棚メモリーお知らせアラーム

- ・仕掛け投入中、メモリーした棚の6m手前より2m間隔でピッ、メモリーした棚ではピーッと鳴り、メモリーした棚にだんだん近付いて行くのをお知らせします。

※棚さぐり時に頻繁にアラームが鳴らないように棚メモリーお知らせアラームはメモリーした棚

より6m以上巻上げてから、再度糸を出さないと鳴らないようになっています。

スイッチアラーム

- ・各スイッチを押すと、アラーム(ピッ)が鳴り、スイッチが確実に押されたことを音で確かめられます。(メニュー設定によりOFFにすることもできます。)

過電圧警告アラーム

- ・電源電圧がリールの使用可能範囲より高いとき、連続アラーム音を発し、警告します。ただちにその電源の使用をおやめください。

タイマー巻上げお知らせアラーム

- ・タイマー巻上げ前にアラームにてお知らせします。

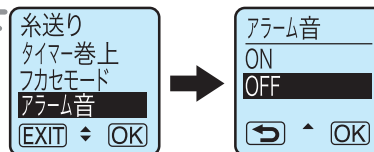
●アラームON・OFF選択

アラーム音を設定により消すことができます。



- ・初期設定はONになっています。
- ・アラームをOFFにすると、スイッチ操作やパワーレバーを操作してもアラーム音は出ません。

- 1.メニュー画面でアラームON・OFF画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーを操作してOFFにしてください。
3. **[OK]** (MEMO スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。

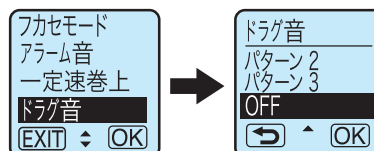


●ドラッグ音ON・OFF選択

ドラッグ音を設定により消すことができます。

- ・初期設定はONになっています。
- ・ドラッグ音をOFFにするとドラッグが引き出されても電子音が出なくなります。

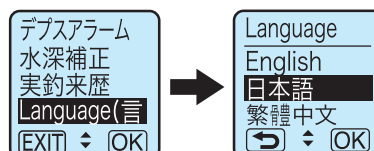
- 1.メニュー画面でドラッグON・OFF画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーを操作してOFFにしてください。
3. **[OK]** (MEMO スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



●Language(言語)選択

液晶画面に表示される言語を選択できます。

- 1.メニュー画面でLanguage画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーで希望の言語を選択してください。
3. **[OK]** (MEMO スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。

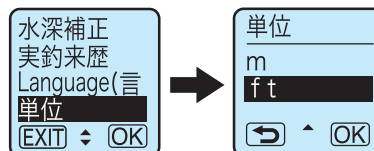


機能設定の基本操作「23.その他の便利機能」

●単位選択

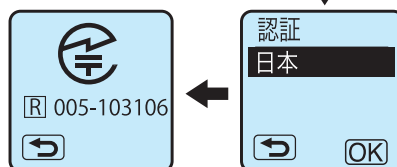
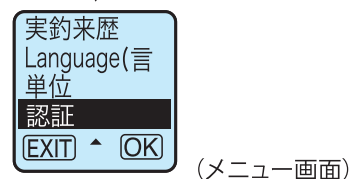
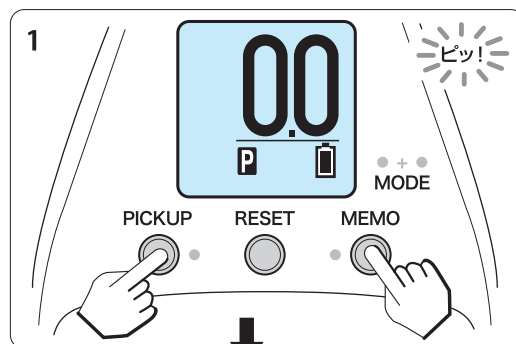
液晶画面に表示される数値の単位をm(メートル)/ft(フィート)から選択できます。
※ただし、ft(フィート)表示に設定した場合でも道系入力時に限り、m(メートル)表示となります。

- 1.メニュー画面で単位画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーで希望の単位を選択してください。
3. **OK** (**MEMO** スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



●認証

- 1.表示が **0.0** のときに **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーで「認証」を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。
- 3.日本を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。
- 4.技適マークが表示されます。



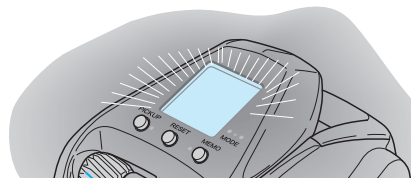
本製品(リール本体)には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、工事設計認証を受けた無線設備を内蔵しています。
EJ2840: 005-103106



●カウンターランプ

カウンター内のランプが常に点灯。

- ・薄暗いところでもカウンターが見えるよう、通電中はいつもカウンター内のランプがついています。



●ブレーカー作動表示

- ・安全に釣りをするため、リールに大きな負荷が加わるとブレーカーが作動し、15秒間電動巻上げを停止します。作動時は右図のような表示が出ます。
- ・リールに加わる負荷によっては15秒以上停止することがあります。



SEABORG 500J



展開図

SEABORG 500J

No.	部品名	No.	部品名	No.	部品名
12	モーターホルダー	321	スプー -ルシャフトキ ア(B)	531	クラッチアプレート
39	モーター	324	スプー -ルシャフトキ ア(B)W	534	ドライブギアW
51	モーターホルダー -SC (A)	327	セットアプレートSC(A)	537	ドライブギア
54	モーターホルダー -SC (B)	330	セットアプレートSC(B)	540	ドライブW
55	バックアシート	342	ICモジュールカバー	543	ドライブディスクW
57	フレーム	345	ICモジュール	546	ドライブリップW
99	レールガイド	348	ICモジュールカバー -SC(A)	549	ギアシャフトオリング
108	ウォームシールド	354	ジョイント バックレバ	552	ドライブディスクカラー
114	ウォームシャフト	369	ジョイント バックレバ -オリング	555	ドライブバック
117	ウォームシャフトカラー	372	ジョイント バックレバ -ホルダー -(L)	558	ドライブカラー
120	ウォームシャフトW(A)	375	ジョイント バックレバ -アプレート	561	クラッチSP
123	ウォームシャフトキア	378	ジョイント バックレバ -アプレートSC	564	クラッチカムレバ
126	ウォームシャフトリテーナ	381	ICモジュールカバー -SC(B)	570	RSアプレート
129	レールガイド カラー	382	レールガイド ホスト(B)	594	ビニオンボールベアリング
132	レールガイド W	384	セットアプレートSC(C)	597	ビニオンベアリング リング
135	レールガイド リテーナ	390	LSアプレート	600	ライストッパ
138	ボール	423	フォールベアキタ イアルW(A)	603	RSアプレートSC(A)
141	ボールW	426	フォールベアキタ イアルSP・W	606	RSアプレートSC(B)
144	レールガイド ホストカラー	429	フォールベアキタ イアルW(B)	609	RSアプレートSC(C)
147	レールガイド ホスト(A)	432	フォールベアキタ イアルW(C)	630	ハンドレバアリング W(A)
150	レールガイド ホストリテーナ	435	コード カバ	633	ハンドレバ -レバアリング
153	モーターキアカラー	438	LSアプレートSC(A)	636	ハンドレバアリング W(B)
156	モーターキア(A)	441	LSアプレートSC(B)	639	ドライブ SP・W
186	スプー	442	LSアプレートSC(C)	645	ドライブホルダー
201	LSスプー -ルギア	444	フレームSC	654	ドライブリーアSP
204	LSスプー -ルギアアリング	450	クラッチレバ -アプレート(R)	657	スタートドライブ W
207	スプー -ルシャフトボールベアリング (A)	453	クラッチレバ -アプレート(L)	660	スタートドライブ
210	スプー -ルシャフト	456	クラッチカムベアリング	669	フィンガー -カバ
213	スプー -ルシャフトキア(A)	459	クラッチカムベアリング カラー	672	フィンガー -カバ -SC
216	スプー -ルシャフトキア(A)リテーナ	465	クラッチカム	699	ハンドレバカラー
219	スプー -ルギア	468	クラッチカムマウント ネット	702	ハンドレバ
252	スプー -ルピン	471	クラッチレバ	744	ハンドレバネット
255	スプー -ルアプレート	474	クラッチカムアプレート	747	ハンドレバロックアプレート
258	スプー -ルアプレートSC	477	クラッチカムSP	750	ハンドレバロックアプレートSC
261	スプー -ルアプレートボールベアリング	480	クラッチカムW	753	コネクタキャップ
264	スプー -ルアプレートW	483	クラッチカムSC		
273	セットアプレート	486	ギアシャフトベアリング		
291	アイドールギア(A)カラー	492	ギアシャフト		
294	アイドールギア(A)	495	ギアシャフトオリング		
297	アイドールギア(A)SC	498	ギアシャフトアプレート		
300	アイドールギア(B)カラー	501	ギアシャフトアプレートSC		
303	アイドールギア(B)	504	キックレバ -SP		
306	アイドールギア(B)SC	507	ラチェット		
309	モーターキア(B)ボールベアリング	510	クラッチカムレバ -ピン		
312	スプー -ルシャフトボールベアリング (B)	513	クラッチカムレバ -W		
315	モーターキア(B)	516	クラッチカムレバ		
318	モーターキア(B)W	525	ビニオン		

※調整、その他により、展開図、部品表内容が製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

故障かな？と考える前に

症 状	考えられる原因	処 置	参 照 ページ
ジョグパワーレバーを操作しても、モーターが回転しない。	・船べり停止後、そのまま巻き続けカウンター表示が 2.0 m になっています。	・正常です。(巻込み防止のため手動以外作動しないようにしてあります)。	P39
	・レバーを1度OFFの位置に戻していません。	・1度レバーをOFFの位置に戻して巻上げを開始してください。	P16
	・安定しない船の電源を使用しています。	・船電源は不安定で、正常に作動しないことがあります。電動リール専用バッテリーをご使用ください。	P11
カウンターがつかない。	・バッテリーの残量切れです。	・バッテリーを再充電してご使用ください。	P10~12
	・コードの断線です。	・コードを新品と交換してください。	P14
	・バッテリーと + 、 - が正しく接続されていません。	・ + 、 - の逆接なく、確実に接続し直してください。	P10
船べり停止位置がおかしい。	・仕掛けセットしたとき、RESET スイッチを押していません。	・仕掛けをセットした後は必ず水面ゼロ設定をしてください。	P39
	・オモリの号数や船のゆれによって多少ズレることがあります。	・えらべる船べり停止の設定値を調整してください。	P40
	・糸がのびて水面ゼロ設定点が下にズレてしまっています。	・水面ゼロ設定を再度行ってください。	P39
カウンター表示に誤差が多い。	・使用中に道糸がのびることがあり、カウンター表示と糸との間に差が生じることがあります。	・再度、道糸データを入力してください。	P21~33
		・水深補正をしてください。	P57,58
	・実釣り中、電源が消えた時に糸を巻いてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	P21~33
	・糸を出している時に、RESET スイッチを長押ししてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	
PICK UPスイッチを押しても巻けない。	・速度設定が○になっています。	・メニュー画面で速度を設定してください。	P43
	・船べり停止位置+3m以内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	P43
ジギングモード(PICK UP)を押してもシャクリしない。	・クラッチがOFFの状態です。	・クラッチをONにすると操作ができます。	P44~48
	・船べり停止位置+3m以内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	
	・チョイ巻き設定になっています。	・メニュー画面でジギングモードの設定をしてください。	
リモートジョグを操作してもリールが動かない。	・リモコンとリールの距離が離れ過ぎていませんか？ ・乾電池は正しくセットされていますか？ ・電池の残量が少なくなっていますか？ ・ご使用になるリールと接続(ペアリング)されていますか？	・新しい電池と交換して再度リールと接続してください。	P34,35

※上記の点検が行なわれてもなお、正常に戻らない場合、およびほかの故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際は、お買い求めの販売店、または取説裏面に記載されたお客様センターにおたずねください。

アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際は買い求めの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター（無料） 携帯電話からもご利用できます

TEL 0120-506-204

受付時間：9:00～17:00 （土・日・祝祭日は除く）

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます

www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16